

バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No.101



2024 年 12 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

第15回シニアバスケットボール交歓大会 in Yoyogi

期日：2024年10月31日（木）－11月1日（金） 場所：代々木第二体育館

<参加チームの皆さん>



駄馬



Coki-Coki



Tigre Azzurro



長野クラブ



代々木ガールズ



MYC



横浜ビーシーガールズ



セブンブラザーズ



FREEDOM G



STARS OF STARS



岩手マスターズ

目 次

○ 令和6年度活動中間報告 ―通常総会の報告と現状及び今後の活動報告―	2
○ 会長新任の挨拶	諸山 文彦 4
○ 新理事の自己紹介	5
○ パリ・オリンピック：男子は米国が金メダル	6
○ パリ・オリンピック：女子の金メダル米国は辛勝	8
○ FIBA アジアカップ 2025 予選（1次ラウンド）結果	10
○ 全国各地のシニアバスケットボール大会	普及部 12
◆第30回北海道ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会	
◆第2回エール杯（岡山大会）	
○ 第15回シニアバスケットボール交歓大会 2024 in Yoyogi 開催	普及部 14
○ 長野県四高校による 0B 定期戦 ―45周年記念大会を開催―	普及部 15
○ 中学生初心者向けクリニック（世田谷）開催	普及部 18
○ リングに向かって“跳べ”10年後の子供達	普及部 19
―第76回板橋区区民体育大会 小学生の部―	
○ 愛知県バスケットボールのあけぼの	歴史部 20
―名古屋 YMCA でバスケットボールがスタート―	
○ 高校籠球ふるさと記（愛知県編）	歴史部 22
○ 【人物抄】 清水 英樹	歴史部 28
―昭和初期の体操専科教員 番町小学校で体操・バスケットボールを指導―	
○ 【人物抄】 松井 聡	歴史部 31
―高校生でオリンピック代表に選ばれた日本の名ガード―	
○ 会員だより	児玉 幸長 37
京都バスケットボール協会の設立と京都バスケット 100 年のあゆみ（2）	
○ 会員だより	須田 武志 42
嘘のような、本当にあった話（その6～）	
○ 会員だより	丸山 広伊 45
長野クラブのあゆみ	
○ 会員だより	川戸 政角 47
FIMBA イタリア・ペーザロ大会に参加	
○ 会員だより	田中 芳郎 49
2024FIMBA の大会に参加	
○ 事務局だより	事務局 50
○ プラザ こぼればなし	51

令和6年度活動中間報告

— 通常総会の報告と現状及び今後の活動報告 —

[事務局]

【通常総会の報告】

令和6年度通常総会（「本人」の出席と「はがき」による書面決議）を7月24日に開催。

総会員数 133 名 出席会員数 98 名（本人出席 19 名、書面決議 79 名）

会員総数の半数 67 名を上回っており総会は有効に成立。

1 審議事項

- (1) 議長の選任
- (2) 第一号議案 令和5年度 事業活動報告
- (3) 第二号議案 令和5年度 事業会計収支決算報告
- (4) 第三号議案 同 上 監査報告
- (5) 第四号議案 令和6年度 事業活動計画（案）
- (6) 第五号議案 令和6年度 事業収支予算（案）
- (7) 第六号議案 役員任期満了に伴う改選の件

2 議事の結果

上記事項を審議し総会員数 133 名に対し賛成 98 名ですべての議案について、承認されました。

「事業報告書」を東京都管理法人課に提出し収受されていることを報告します。

【令和6年度活動報告】

- 4月5日 関東ゴールデンシニアバスケットボール連盟、打合せ出席
- 6月 監査・理事会「令和6年度通常総会資料」（案）を審議・承認
「令和6年度通常総会資料」（案）発送はがきによる賛否
- 7月14日 中学生初心者クリニック 5年ぶりに世田谷学園にて開催
男子 12 校/96 名・女子 11 校/89 名・合計 185 名参加
- 7月24日 通常総会開催 於 コンフォート水道橋
「バスケットボールプラザ 100 号」発行
- 9月2日 共同新聞社から天皇杯 100 回記念大会について取材を受ける。
- 9月7日 第 30 回 北海道全道大会 札幌
- 9月7・8日 第 22 回エール杯全国シニアゴールデン・プラチナシニアバスケットボール岡山大会
- 9月27日 能代バスケットボールミュージアム 訪問
- 10月23日 「検討委員会」開催

10月31日～ シニアバスケットボール交歓大会 in 代々木 開催
11月1日 男子60歳以上/8チーム、女子50歳以上/3チーム 合計11チーム参加
12月13日 理事会・講演会・懇親会 於 コンフォート水道橋
「バスケットボールプラザ101号」発行



シニアバスケットボール交歓大会 in 代々木懇親会での
諸山新会長挨拶（10/31・体育館1Fカフェ）

【今後の活動予定】

- 1月中旬以降 令和7年度（2025年）通常総会資料作成
（活動報告・決算報告・予算作成・活動計画など）
- 2月（未定） シニア交歓大会 in 白子（70歳以上）
- 4月以降（令和7年度）
- ・ 監査・理事会の招集、総会資料発送
 - ・ 「バスケットボールプラザ102号」
 - ・ 令和7年度 通常総会の開催

以上

会長新任の挨拶

諸山 文彦



この度、会長を仰せつかりました諸山です。
今後共にご指導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、振興会の役員と「今後の在り方検討委員会」で検討をしましたが、まだ、全体を纏めるまで進んでおりませんので、今回は、重点課題を2点に絞り、方針を示しておきます。

1. 日本バスケットボール協会との連携・強化

- ・過去において、日本のバスケットボール界は以下の経過があった。
2006年の世界選手権は、さいたまスーパーアリーナで開催されたが、13億円の赤字になり、日本のバスケットボール界は混乱期が始まったと言われている。
- ・その後、混乱期が長く続いて、JOCやFIBAの介入を招くことになった。2015年にサッカー界から川淵三郎氏が会長に就任して混乱期が収まり、現在バスケットボール協会は、一体化がなされている。
- ・Bリーグ、Wリーグ共に盛り上がりを見せ、男女代表チームがオリンピック等の国際大会で活躍をし、有能な選手はNBAで活躍する時代に入ってきたことは誠に喜ばしい。
- ・しかし、バスケットボール協会は一体化がなされてきたが、残念ながら日本バスケットボール界全体の一体化がなされていないのは寂しい限りである。
- ・振興会には、バスケットボールに関する、歴史的資料が数多く収集・保管されており、会報「バスケットボールプラザ」も情報交換の目的から有効に活用出来ると思われる、主催するゴールデンシニア大会も活気を呈してきている。
- ・時間はかかると思われるが、是非、一体化への注力をお願いしたい。

2. 振興会事業の拡大・発展

・振興会の事業について、今後、大いに拡大・発展を目指していきたい。特に、ゴールデンシニア大会は、八幡カップ、横浜カップ、岡山エール杯など、北海道から九州・沖縄地区等多くの地区で開催されており、振興会も代々木、白子大会を開催している。関東ゴールデンシニア連盟は、設立後、11年目に入っており、当初6チームで開催したリーグ戦も今年度は13チームにまで拡大・発展してきた。また、70歳以上の大会もリーグ戦が開催できる程、チーム数が増えてきており、人生100年時代、今後益々、高齢者が増えると予想されている。ゴールデンシニア大会も各地区で、予選を経て全国大会に進む等の見直しをすることにより、更なる発展を遂げることを期待したい。

以上

新理事の自己紹介

[事務局]

今年度、新たに理事になられた西川博之さんと西島修さんが自己紹介します。

西川博之理事



中学からバスケットを始め、3年生の時県大会で優勝しました。
四日市高校では、県代表としてインターハイや春の新人戦で東海大会に出場しました。
京都大学入学後もバスケットを続け、卒業後は社会人クラブで今までプレーしています。
今年古希になりましたが、ここまで続けてこられたのは多くの方との素晴らしい出会いとご支援の賜物だと思っています。

近年女子は東京オリンピックで銀メダルを取り、男子はパリオリンピックに48年ぶりの自力出場が出来ました。また地上波での放送も増え人気が出てきています。

こんな折に振興会の理事を仰せつかり身の引き締まる思いでいます。

若い方からシニア層までの幅広い年代の方や障害者の方々がバスケットを通じ研鑽に励み、交流を深め生涯楽しめることを願っています。

Dr.Jことジュリアス・アービングが来日した時の言葉が今も胸にあります。ご紹介します。

「一旦コートに入れば、人種も宗教も男女も年齢も関係ない。そこにあるのはバスケットのルールだけだ。」

以上

西島修理事



1950年東京都目黒区生まれ。都立小山台高校に入学してからバスケットを始め、その後東京大学、東京海上（当時は日本リーグ2部）でプレーしました。ただし、バスケットを続けるつもりで東京海上に入社したものの、入社した年の7月の正式配属で仙台支店勤務となったため東京海上でのプレーヤー生活はわずか数か月で終わりました。

30数年のブランクのあと、東京海上の蒲田先輩（京大卒）からお誘いがあり、旧七帝大OBで作った「セブンブラザーズ」というチームに加えていただいてバスケットを再開しました。ほぼ同時に「SOS」というクラブチームにも入部させていただいて、現在はおよそ週1回のペースでバスケットを楽しんでいます。

以上

パリ・オリンピック：男子は米国が金メダル

日本代表は銀メダルフランスにグループフェーズで惜敗

[編集部]

パリ・オリンピックは、7月27日(土)から8月4日(日)まで、進出した12チームによる予選のグループフェーズが開催された。(日時は現地時間)

グループフェーズの成績

グループ A

	勝	敗
カナダ	3	0
オーストラリア	1	2
ギリシャ	1	2
スペイン	1	2

グループ B

	勝	敗
ドイツ	3	0
フランス	2	1
ブラジル	1	2
日本	0	3

グループ C

	勝	敗
米国	3	0
セルビア	2	1
南スーダン	1	2
プエルトリコ	0	3

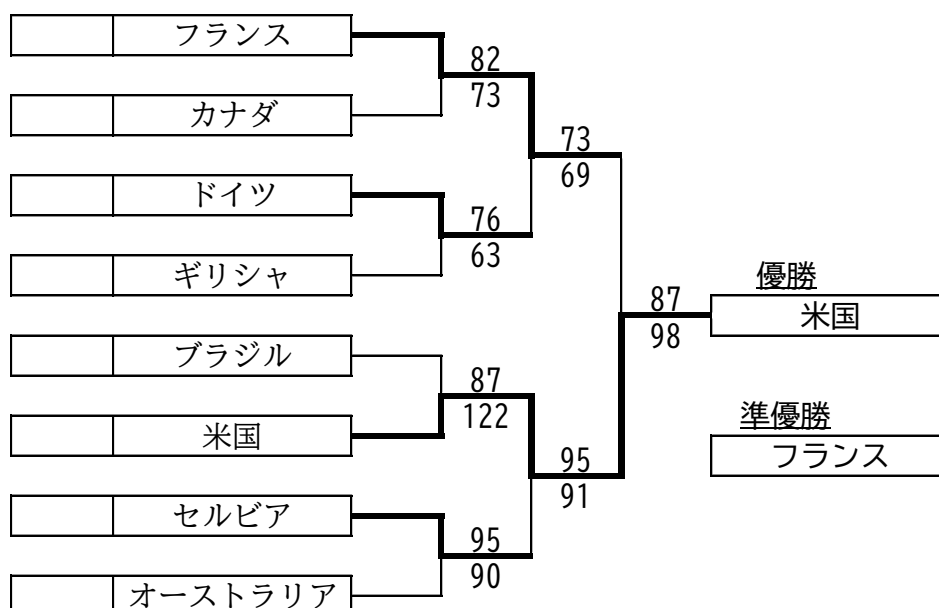
OQT (FIBA Olympic Qualifying Tournament 2024)

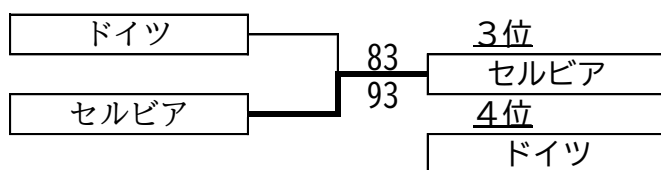
世R：2024.02.27.の世界ランク

グループフェーズでの、各グループの上位2チーム(計6チーム)と、残り6チームのなかから成績上位の2チームとの二重線上位の上記8チームがファイナルフェーズに進出した。

この8チームによる準々決勝の組み合わせは、グループフェーズ終了後、8月5日のポット抽選で決定し、12日(日)の決勝戦まで実施された。(日時は現地時間)

ファイナルフェーズの結果





準々決勝以前に敗退したチームの順位は、FIBA オフィシャルバスケットボールルールに従って下記のように決定された。

5位 カナダ 6位 オーストラリア 7位 ブラジル 8位 ギリシャ
9位 南スーダン 10位 スペイン 11位 日本 12位 プエルトリコ

<日本の試合結果>

7月27日(土)

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
ドイツ	28	24	22	23	97
日本	21	23	17	16	77

7月30日(火)

	Q1	Q2	Q3	Q4	OT1	計
日本	25	19	20	20	6	90
フランス	32	17	20	15	10	94

8月2日(金)

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	20	24	29	11	84
ブラジル	31	24	22	25	102

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	トム・ホーバス	公益財団法人日本バスケットボール協会

<「AKATSUKI FIVE」男子日本代表選手>

*所属は2024年7月8日現在

NO	選手名	P	身長 cm	所 属
2	富樫 勇樹	PG	167	千葉ジェッツ
4	ジェイコブス 晶	SF	203	ハワイ大学
5	河村 勇輝	PG	172	横浜ビー・コルセアーズ
6	比江島 慎	SG	191	宇都宮ブレックス
7	テーブス 海	PG	188	アルバルク東京
8	八村 塁	PF	203	ロサンジェルスレイカーズ
12	渡邊 雄太	SF	206	—
18	馬場 雄大	SF	195	—
24	ジョシュ・ホーキンソン	C/PF	208	サンロッカーズ渋谷
30	富永 啓生	SG	188	—
34	渡邊 飛勇	C	207	信州ブレイブウォリアーズ
91	吉井 裕鷹	SF	196	アルバルク東京
	平 均		193.7	

PG ポイントガード、 SG シューティングガード、 SF スモールフォワード、
PF パワーフォワード、 C センター

以上

パリ・オリンピック：女子の金メダル米国は辛勝

日本代表はグループフェーズで3戦ともに完敗で順位は最下位

[編集部]

パリ・オリンピックは、7月28日(日)から8月5日(月)まで、進出した12チームによる予選のグループフェーズが開催された。(日時は現地時間)

グループフェーズの成績

グループ A

	勝	敗
スペイン	3	0
セルビア	2	1
中国	1	2
プエルトリコ	0	3

グループ B

	勝	敗
フランス	2	1
オーストラリア	2	1
ナイジェリア	2	1
カナダ	0	3

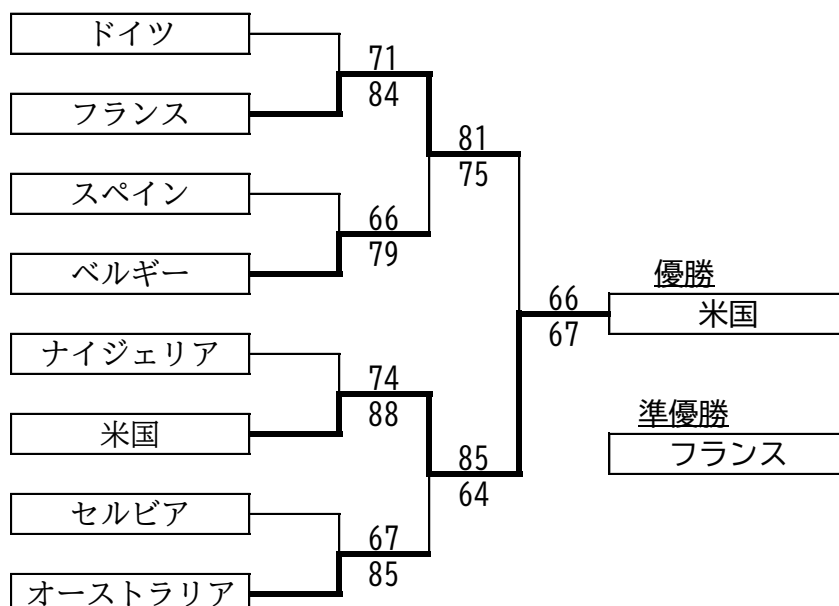
グループ C

	勝	敗
米国	3	0
ドイツ	2	1
ベルギー	1	2
日本	0	3

グループフェーズでの、各グループの上位2チーム(計6チーム)と、残り6チームのなかから成績上位の2チームとの二重線上位の上記8チームがファイナルフェーズに進出した。

この8チームによる準々決勝の組み合わせは、グループフェーズ終了後、8月6日のポット抽選で決定し、11日(日)の決勝戦まで実施された。(日時は現地時間)

ファイナルフェーズの結果



ベルギー		81	3位
オーストラリア		85	4位
			ベルギー

準々決勝以前に敗退したチームの順位は、FIBA オフィシャルバスケットボールルールに従って下記のように決定された。

5位	スペイン	6位	セルビア	7位	ドイツ	8位	ナイジェリア
9位	中国	10位	プエルトリコ	11位	カナダ	12位	日本

<日本の試合結果>

7月30日(火)		Q1	Q2	Q3	Q4	計
	米国	22	28	29	23	102
	日本	15	24	18	19	76
8月1日(木)		Q1	Q2	Q3	Q4	計
	日本	16	20	13	15	64
	ドイツ	21	21	17	16	75
8月4日(日)		Q1	Q2	Q3	Q4	計
	日本	7	16	16	19	58
	ベルギー	19	20	22	24	85

< 主なスタッフ >

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	恩塚 亨	公益財団法人日本バスケットボール協会

<「AKATSUKI FIVE」女子日本代表選手>

*所属は2024年6月22日現在

N0	選手名	P	身長 cm	所 属
3	馬瓜 ステファニー	PF	182	CASADEMONT ZARAGOZA
8	高田 真希	C	185	デンソー アイリス
12	吉田 亜沙美	PG	165	公益財団法人日本バスケットボール協会
13	町田 瑠唯	PG	162	富士通レッドウェーブ
15	本橋 菜子	SG	164	東京羽田ヴィッキーズ
23	山本 麻衣	SG	163	トヨタ自動車 アンテロープス
27	林 咲希	SF	173	富士通レッドウェーブ
30	馬瓜 エブリン	PF	180	デンソー アイリス
32	宮崎 早織	PF	167	ENEOSサンフラワーズ
52	宮澤 夕貴	PF	183	富士通レッドウェーブ
75	東藤 なな子	SF	175	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
88	赤穂 ひまわり	PF	184	デンソー アイリス
	平 均		172.8	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、
PF パワーフォワード、C センター

以上

FIBA アジアカップ 2025 予選（1 次ラウンド）結果

男子日本代表：連勝して Window3の結果を待たず本戦出場を決定

[編集部]

FIBA アジアカップ 2025 予選（FIBA Asia Cup 2025 Qualifiers）（Window2）が11月21日（ホーム：栃木県宇都宮市日環アリーナ栃木、対モンゴル）と24日（アウェー：グアム、対グアム）において開催されたので結果を報告する。

参戦したスタッフ及び選手は下記のとおりである。

外国在住選手及び故障の渡辺雄太選手（千葉ジェッツ）は参戦していない。

<主なスタッフ>

役 職	氏 名	所 属
ヘッドコーチ	トム・ホーバス	公益財団法人日本バスケットボール協会
アソシエイトヘッドコーチ	コーリー・ゲインズ	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	勝久 ジェフリー	川崎ブレイブサンダース
アシスタントコーチ	佐々 宜央	琉球ゴールデンキングス

<「AKATSUKI JAPAN」男子日本代表選手>

所属は2024年11月23日現在

N0	選手名	P	身長 cm	所 属
0	大浦 颯太	PG	182	三遠ネオフェニックス
2	富樫 勇樹	PG	167	千葉ジェッツ
6	比江島 慎	SG	191	宇都宮ブレックス
16	中村 拓人	PG	184	広島ドラゴンフライズ
19	西田 優大	SG	190	シーホース三河
21	山崎 稜	SG	183	広島ドラゴンフライズ
δ 22	山口 颯斗	SF	195	長崎ヴェルカ
* 24	ジョシュ ホーキンソン	C/PF	208	サンロッカーズ渋谷
33	佐々木 隆成	PG	180	三遠ネオフェニックス
* 34	渡邊 飛勇	C	207	信州ブレイブウォリアーズ
* 42	渡邊 伶音	C	204	福岡大学附属大濠高等学校
δ 53	アレックス・カーク	C	201	琉球ゴールデンキングス
δ 75	井上 宗一郎	PF	201	越谷アルファーズ
91	吉井 裕鷹	SF	196	三遠ネオフェニックス
99	川真田 紘也	C	204	長崎ヴェルカ
	平 均		192.8	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、

PF パワーフォワード、C センター

δ：モンゴル戦のみ、*：グアム戦のみ

11月21日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	22	25	20	26	93
モンゴル	22	14	15	24	75

11月24日

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
グアム	15	16	22	25	78
日本	20	28	20	15	83

日本は、グアム戦残り3分で71-71の同点に追いつかれるという接戦を演じ、タイムアウト後の#24 ホーキンソンのレイアップや#19 西田の3Pなどでグアムの追い上げを振り切って辛勝した。若手の今後の伸びを祈るばかりである。

Window2 までの：グループ Cの対戦成績

グループ C

順位	チーム	勝	負	日本	中国	グアム	モンゴル
C1	日本	4	0		○ 76-73	○ 77-56 ○ 83-78	○ 93-75
C2	中国	3	1	● 73-76		○ 101-53	○ 80-49 ○ 90-52
C3	グアム	1	3	● 56-77 ● 78-83	● 53-101		○ 74-63
C4	モンゴル	0	4	● 75-93	● 49-80 ● 52-90	● 63-74	

この1次ラウンドにはアジア地区の合計24チームが参加し、6グループに組分けされて各チームが2戦し、各グループ上位2チームの計12チームが地区大会本戦の2次ラウンドに進む。

グループCに属する日本は、1次ラウンドでこれまで4戦全勝を収めたことにより、残るWindow3（アウェーで2025年2月20日中国、23日モンゴルで実施予定）の試合結果を待たずして、アジアカップ本大会の出場権を獲得した。男子アジアカップ2025本戦は、サウジアラビアの第2の都市・ジッダにおいて8月5日に開幕される。

現在、本戦の出場権を得ているのは、オーストラリア、フィリピン、ニュージーランド、日本、ヨルダン、サウジアラビア、レバノンの7チームである。

以上

全国各地のシニアバスケットボール大会

[普及部]

第30回北海道ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会と第2回エール杯（岡山大会）に参加しましたので報告します。

□第30回北海道ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会

9月7日、札幌・中島公園近くのホテルで開催された「北海道ゴールデンシニア交歓大会」の懇親会に参加しました。この交歓大会は、札幌・旭川・帯広・函館という北海道4地区のシニアバスケットボールの愛好者の皆さんが集まり開催されている1992年の第1回大会から30年間続く歴史ある大会です。

コロナ感染の影響で大会の開催は中断していましたが、昨年、函館で再開された大会に参加し、振興会のプラザ掲載「高校籠球ふるさと記・北海道編」の原稿内容を北海道のチームの皆さんにチェックしていただきました。

今回、この懇親会の会場で、その原稿が掲載された「バスケットボールプラザプラザ99号」を配布しました。

来年は在間先生が100歳になります。札幌での再会を期して、大会参加者全員で集合写真を撮り散会しました。



在間先生



□第2回エール杯

スーパーゴールデン・プラチナシニアバスケットボール岡山大会

昨年に引き続き、9月7日（土）、8日（日）の2日間、岡山県総合グラウンド内『ジップアリーナ岡山』において、65歳以上のスーパーゴールデンシニアに19チーム、70歳以上のプラチナシニアに11チームが参加して、トーナメント方式で白熱した熱戦が繰り広げられました。

また、初日の夜は全員参加（約300名）の懇親会が岡山プラザホテルで開催され、大いに盛り上がりました。



参加チームと成績は次の通りです。

○スーパーゴールデンシニア（65歳以上）：19チーム

TOKYO BEARS（東京）、JJ和歌山（和歌山）、YOYO（東京）、
広島47THスーパーゴールデン（広島）、富士山静岡（静岡）、沖縄オールドスターズ（沖縄）、
STARS OF STARS（東京）、KYUSHU FIVE（福岡）、セブンブラザーズ（東京）、
横浜ビー・シーガールズ（横浜）、長崎チャンピオンズ（長崎）、
スーパーゴールドセリアックス（岡山）、FREEDOM SG（愛知）、
シニアギャロップス（大阪）、ブラックパンサー（山梨）、四国ゴールデンシニア（愛媛）、
Coki-Coki（千葉）、鳥取コスモス（鳥取）、Tigre Azzuro（東京）

☆ 優勝：横浜ビー・シーガールズ（横浜） 準優勝：STARS OF STARS（東京）

○プラチナシニア（70歳以上）：11チーム

草加&神戸レジェンド（横浜・埼玉）、広島47THプラチナゴールデン（広島）、
ブラックパンサー（山梨）、シニアギャロップス（大阪）、Tigre Azzuro（東京）、
沖縄オールドスターズ（沖縄）、KYUSHU FIVE（福岡）、Coki-Coki（千葉）、
富士山静岡フリーダム（静岡・名古屋）、岡山四国酒飲み仲間（岡山・四国）、
沖縄がんじゅうスター（沖縄）

☆ 優勝：ブラックパンサー（山梨） 準優勝：KYUSHU FIVE（福岡）

以上

第15回シニアバスケットボール交歓大会

2024 In Yoyogi 開催

[普及部]

今回の大会は男子チーム8チーム、女性チーム3チームの計11チームで行いました。10月31日はハロウィーンということもあり、例年にはない緊張感がありました。

31日の開始時間は例年と同じでしたが、試合数を1試合少なくし、終了時間は例年に比べ、30分早く終了しました。11月1日は開始時間を30分早め、31日より1試合多く試合を行いました。

運営側としては、会場設営や電子スコアの操作方法等、回を重ねる毎に迅速且つ、適切に対応出来ていたように感じました。また、今回は帯同審判制を行いましたが、軽度の調整はしたもの、滞りなく運営できた感じはしました。

試合は例年より接戦のゲームが多く、怪我の心配をしましたが、大きな怪我はなく、安堵しました。

また、70歳以上の試合を今年は1試合ずつ開催しましたが、参加者希望者が多くなり今後は、60歳以上の代々木大会と70歳以上の代々木大会を別で開催した方が良いかと感じました。

やはり女性の試合は華があり、もう1チーム増やしても良いと感じました。

来年は、男子10チーム、女子4チームを目標にチーム数を増やし、みなさまに楽しんでいただけばと考えております。

(お知らせ)

次回(第16回シニアバスケットボール交歓大会 2025 In Yoyogi)の開催日が決定しました。参加を希望される皆様はご予約をお願いします。

2025年10月29日(木)、30日(金) 代々木第二体育館

(文責 高橋 旭)

長野県四高校による 0B 定期戦

— 45 周年記念大会を開催 —

[普及部]

8月14日善光寺のお膝元、長野市「長野高校体育館」で、長野高校・松本深志高校・上田高校・諏訪清陵高校という長野県内の4校バスケットボール部0Bによる「四校0B定期戦」の「45周年記念大会」が開催された。45年という地方の四校の高校の0B定期戦が長い間1校も欠けることなく（コロナ禍を除いて）毎年開催されてきたことは全国的にも珍しいのではないかな。第1回は1979年に東京で開催され、第10回より5年毎の節目の大会を長野県内4地区持ち回りで開催しており、これもまた8回目を数える意義のある交流となっている。

そこで、この大会の創設に尽力した松岡憲四郎氏（※）にお話を伺い、思いのたけを語っていただいた。

（※）松岡憲四郎氏：長野高校1965年卒、元（公財）日本バスケットボール協会事務局長・理事総務部長などを務める。

昔は、四校とも長野県の強豪チームで、戦後のインターハイが再開された1947（昭22）年から1964（昭39）年までの18年間に、この四校が毎年交代でインターハイに出場していたのです。1955（昭30）年と私が現役だった1963（昭38）年には、長野高と松本深志高が県の1位、2位となりインターハイに出場しています。

実は、このような歴史の事実も知らずに二つの個人的な縁で定期戦が始まったのです。約48年前、当時私が住んでいた東京・調布の家に、いろいろな浪人生や学生たちが出入りしていました。その中に、私の甥の松本深志高の同級生でバスケット部0Bの中野恵介氏（1975年卒）や小林資典氏（同）がいて、飲み会の席で「松岡さん、0B戦やりましょうよ！」と何度か話がありました。しかし当時は、「2校だけではなあ…」と感じ、更に個人的には「新人戦、インターハイ予選共に県の決勝で松本深志高に勝っているのに0B戦で負けるのも嫌だしなあ…」などと考え、返事を濁していました。

当時、長野高0Bでバスケット部の1年先輩の故北澤和基氏（1964年卒）や、長野に住んでいた時期に母校のヘッドコーチをしていた時の選手だった徳間昭雄氏（1974年卒）、塚田和徳氏（1974年卒）、故数本正男氏（1975年卒）などが頻繁に自宅に出入りしていました。地元で0B会がなかったことに「憂いと危機感」を感じつつ、①会報『DASH』の編集・発行をしたり、②長野県に0Bチームとして登録して、県クラブ選手権、全日本総合県予選に参加するなどの活動をしていました。或る年、上田市で行われた全日本総合の県予選で敗れた夜、宿舎を出た私達0Bの5人が市街のアーケードにさしかかった時、前方から30人から40人の大軍団が来ました。狭い歩道をすれちがう時に突然、「あ、松岡さん」と声をかけられました。見ると上田高0Bの横山賢治氏（1970年卒・当時県教員チームのエース格）でした。「おう、これはなんだ？」「はい、今日の試合に勝ったので、今、上田松尾クラブ（上田高0Bチーム）の皆で飲みに行くところです」「おう、そうかそれじゃ上田高校の応援歌を唄うぞ。“♪千曲の流れええ、絶え間なくウー、浅間の煙尽きやらずウー♪”」と歌うと「胴上げだ」「胴上げだ」と口々に声が上がり、あっという間に胴上げされ

てしまいました。横山氏から「上田ですから、私たちが案内します。」と、彼と同期の成沢和幸氏がその一団と別れ、品の良いスナックに案内してくれました。そこでバスケット談義をしている時、横山氏から「0B 戦をやりませんか」と言われました。

そこでその2年ほど前に松本深志高の0Bからの0B戦の要望の話を思い出し、「3校ならやっても良いか」と考え、後日、本校の0Bに諮ったところ賛同を得ました。その後、先の2校0B会からも賛同を得て長野高0Bによって企画・準備を行い、第1回を国立東京西ヶ丘競技場体育館（現 NTC ナショナルトレーニングセンター隣接地）で開催しました。ゲームの夜、新宿で総勢200名が集まって懇親会を催し、各校の応援歌・校歌・エールの交換などに続いて、最後に全員で長野県歌「信濃の国」を大合唱し幕を閉じました。このことは毎年、今日まで続く懇親会の恒例行事となっています。

この会の席上、松本深志高0Bの故相沢英伸先輩から「長野県は、北信・中信・東信・南信の4地区で成り立っています。現在3地区はありますが、南信から私たちの交歓校である諏訪清陵高を加えたらどうでしょうか」と提案があり、満場一致で賛同し、「四校リーグ戦」となりました。私の家に学生たちが集まり「地元で0B会を創ろう」という活動を行わなければ、この大会は誕生しなかったかもしれません。

第2回から10数年は、松本深志高・岩垂千明氏（1974年卒）、上田高・浅野俊二氏（1968年卒）草野治男氏（1968年卒）関博明氏（1974年卒）諏訪清陵高・清水英俊氏（1967年卒）、福井順氏（1968年卒）など、長野高は、故北澤氏、松岡、徳間氏、塚田氏、故数本氏など各校から在京の幹事が集まり、毎年大会開催の協議を進めました。

第2回大会から20回大会までの内16回を「代々木第二体育館」で開催したことは素晴らしいことで、0B達は大喜びでした。時には、長野高0B・小口氏（東京海上）、上田高0B・黒沢氏（同）、武田氏（アンフィニ東京）など、日本リーグ選手も参加しました。

更に、松本深志高・岩垂氏より、「第10回大会を地元松本で開催したい、また、5年毎の区切りの大会は四校持ち回りで地元開催したらどうか」と提案があり、その後、5年毎に地元で開催しています。さらに現役の活躍を期待して松本の第30回大会から、「四校リーグ戦」を毎年持ち回りで開催しています。各校のバスケット部の活性化・活躍を願うばかりです。

2024年の第45回記念大会は午前9時の開会式から始まり、0B戦と現役戦の各校総当たりで行いました。0Bの最年長である上田高の80歳の荒井邦夫氏（前長野県バスケットボール協会会長・元日本協会評議員・「旭日双光章」受賞）から15歳の高校生まで総勢150名が集まり、各試合の鮮やかなプレーやシュートが決まると拍手と歓声が沸く熱戦が繰り広げられました。プレーヤーの最高年齢は長野高0B松岡の77歳、親子、兄弟での出場などもあり盛会のうちに大会を終了しました。今年は、0B戦も現役戦も松本深志高が優勝しました。

18時より会場を移して、懇親会が行われ0B戦表彰式の後、これからこの大会を進めていく各校運営委員の紹介がありました。（敬称略）

運営委員長 長野高：塚田和徳（1974年卒）

長野高：原田俊幸（1975年卒）、松谷雄司（1982年卒）、西條裕高（1986年卒）

松本深志高：永田正夫（1969年卒）、松田安正（1970年卒）、岩岡誠也（1972年卒）、横沢敏（1982年卒）

上田高：関博明（1974 年卒）、清水順三（1978 年卒）、稲垣啓太郎（1985 年卒）、
金井信之（1997 年卒）

諏訪清陵高：植松崇（1974 年卒）、飯田良（1976 年卒）、加藤幹（1993 年卒）

今後の更なる発展を願うばかりです。

最後に、恒例の各校による「応援歌」「校歌」の合唱のあと全員が肩を組んで長野県歌「信濃の国」を歌って閉幕しました。



当日参加した創設時の幹事さん達
<左から、福井（諏訪青陵）、清水（同）、関（上田）、岩垂（松本深志）、
松岡（長野）、倉科（松本深志）、塚田（長野）の各氏>

【あとがき】

大会創設時から関わった松岡氏は『日本協会の公務が忙しいときは、この大会の運営にかかわれませんでした。各校の 0B の方々が続けてきてくれました。思えばこの間「永く続けよう」「何年は続けよう」と話したことはなく、「バスケットをしよう」「来年はどうする」「次はどうする」の繰り返しで、この「長野県四高校 0B 定期戦」という帯の流れを四校の 0B の皆さんが紡いできました。創設に関わった一人として、関わられた全ての方々に敬意を表し感謝します。現役にはいつの日かこの四校の中から

全国大会に出場できることを期待し、また 0B の皆様にはますますの活躍を祈念します。』とバスケットボールを通じての絆、人の輪の広がりを感慨深げに語っていました。

後日談として、懇親会散会后、2 次会、3 次会と楽しい集いは、翌日の 1 時まで続いたとのこと。



3 次会（長野駅前にて）
左から、松岡（長野）、植松（諏訪青陵）、
岩垂（松本深志）、清水（上田）の各氏

以上

中学生初心者向けクリニック（世田谷）開催

[普及部]

7月14日（日）、世田谷学園体育館で世田谷区中体連バスケットボール部主催、振興会協力による中学生初心者向けクリニックが開催された。コロナ禍による開催中止を余儀なくされていたため、5年ぶりであった。しかし、日本代表男女チームのパリオリンピック出場、特に男子は48年ぶりの出場、これらに因るバスケット人気の高まりを反映してか、男子が12校96名、女子が11校89名、計195名と過去最高の参加者数であった。

講師は、元エバラビッキーズの水澤春奈氏。実質75分という短時間ではあったが、ドリブルの最新テクニック（ドリブル&ポケット等）の模範実技を交えながら、熱心に指導頂いた。最後の15分間は、恒例のお楽しみゲーム（4対4の連続ゲーム）、他校とのゲームを経験したことのない生徒が多く、参加人数の多さもあり、大いに盛り上がった。



最後に、参加した生徒たちに恒例の「バスケでよく使う英語一覽覚えておけばきっと役に立つ」を配布し、クリニックを終了した。

<結びに>

今回も開催に当たり、世田谷区中体連バスケットボール部専門委員の先生方、特に責任専門委員の世田谷学園の古見高広先生には、会場の手配、参加生徒の募集等々で大変お世話になった。同学園の2年生14名には進行のお手伝いをボランティアで担当してもらった。誌面を借りて謝意を表したい。

以上

リングに向かって“跳ベ” 10年後の子供達

— 第76回板橋区区民体育大会 小学生の部 —

[普及部]

98号で紹介した板橋区ミニバスチーム「徳丸モンキーズ」のチーム代表杉田拓馬さんから表題の報告をいただきました。

板橋区ミニバス 徳丸モンキーズ代表 杉田 拓馬

徳丸モンキーズが、第76回区民体育大会、小学生の部で予選リーグAを突破して決勝リーグに進出し、5チームの激戦の中、22-43でフルーツバスケットクラブに決勝で惜敗し第2位となった。昨年度の同大会“優勝”の実績をもって臨んだが、今一つであった。10月の秋の大会に向け“走りまくる力をつけなければならない”と、課題も見えてきた。

板橋区の“ミニバス”大会は新しいチームが年々増えて“レベル”が高くなっているが、他のスポーツクラブの大会などで会場の確保が困難であることなどから、大会の開催に至っていないのが現状である。更に、指導者不足が次のハードルとなることが予想される等、次の課題が見えてきている。



<第76回区民体育大会 小学生の部> 結果

会場：加賀スポーツセンター、小豆沢体育館

期日：令和6年2月11日（日）、12日（祝）、18日（日）

成績：（男子）優 勝：フルーツバスケットボールクラブ

準優勝：徳丸モンキーズ

第三位：じょーだんズ、下赤塚ミニバスケットボールクラブ

（女子）優 勝：フルーツバスケットボールクラブ

準優勝：じょーだんズ

第三位：下赤塚ミニバスケットボールクラブ、B☆Bキッズ

以上

愛知県バスケットボールのあけぼの

ー 名古屋 YMCA でバスケットボールがスタート ー

[歴史部]

今回は、愛知県のバスケットボール組織の創設について報告する。

■ 愛知県体育協会（『日本体育協会 75 周年史』より）（要約）

大正期から昭和初期にかけての体育・スポーツは、学校体育制度の整備、各種国際競技大会への参加、スポーツのラジオ実況放送開始等を背景に急速な普及・発展を見たのであるが、県下では 1921（大正 10）年 10 月名古屋体育協会が創立され、次いで 1929（昭和 4）年 5 月豊橋体育協会が設立されて地域の社会体育の普及・進行が始動したのである。また、この時代は、名古屋基督教青年会が体育部を設け、外国人コーチを招いてのバスケットボール、デンマーク体操などの競技会を積極的に開いて、県下のスポーツ界に新しい分野を開拓した時期であった。

■ 愛知バスケットボール協会（『協会 50 年史「バスケットボールの歩み」』より）（要約）

協会の設立年月日は、1929（昭和 4）年 4 月とされている。

1921（大正 10）年の末に YMCA（基督教青年会）が中心となり、佐藤金一（八高教授）、アッシュ・ブルゲ（同年来名）、増田健三（YMCA 主事）等によって、本格的なバスケットボールの指導が行われた。

1922（大正 11）年、名古屋 YMCA が曾我一夫、氷室真治、鬼頭鶴吉、佐藤金一、足立甚蔵、石黒福治郎、石原善一、青木豊太郎の各氏によって県下で最初のチームを結成した。さらに名古屋 YMCA 主催の指導者講習会、模範ゲームが開催され、YMCA によって学校、企業などへの巡回指導が行われたことにより逐次普及される一方、大会の開催により一般への理解も広がっていった。

1925（大正 14）年、女学校チームが 11 校になり「東海女子藍球連盟」が結成される。

1929（昭和 4）年、県全体のバスケットボールの普及を伴う諸問題を解決し統轄するため、曾我一夫氏を中心に「愛知藍球連盟」が結成される。

1930（昭和 5）年 6 月に正式に名称を「愛知藍球協会」として大喜多寅之助氏を初代会長に発足。同年 9 月に大日本バスケットボール協会が創立されると同時に加盟を申込み、11 月「同協会東海支部」として承認された。

1931（昭和 6）年 1 月、「東海藍球協会」が結成され大喜多会長が就任。

1932（昭和 7）年、地方支部制でなく道府県に支部を置くこととし、用語も「籠球」に統一することになり「愛知籠球協会」と改称。

1946（昭和 21）年 2 月に戦後復興の機運が高まり曾我一夫氏などが発起人となり「東海籠球協会」を復活、1948（昭 23）年、名称を「愛知ならびに東海バスケットボール協会」に改め、同年 12 月会長に滝兵右衛門氏が就任した。

■ その他資料による「愛知バスケットボール協会」の活動記録

- ・「YMCA 年表 1842～1990」より
1902（明治 35）年 名古屋 YMCA 発会式
1922（大正 11）年 名古屋 YMCA「体育講習会」開催 F.H. ブラウン（日本 YMCA 同盟）
10/16.17 大阪 YMCA のバスケット部名古屋に遠征、名古屋 YMCA と親善試合を行う。
- ・「全日本総合選手権大会（大正末～昭和初期）」に関する協会記録より
1925（大正 14）年 4/5 第 5 回 名古屋 YMCA 参加 3 チームリーグ戦 2 敗



参加した石黒、石田、孝橋、鬼頭、青木、石原、曾我の 7 名

- 1927（昭和 2）年 10/28～11 第 7 回 八高参加 2 回戦敗退
- 1934（昭和 9）年 1/7～11 第 13 回 名古屋 YMCA 参加
- ・「明治神宮国民体育大会（大正末～昭和初期）」に関する協会記録より
1925（大正 14）年 10/28～11/3 第 2 回 男子 名古屋 YMCA 女子 愛知第一高女
1926（大正 10）年 11/3 第 3 回 男子 八高 女子 愛知第一高女
1927（大正 11）年 11/3 第 4 回 男子 八高
- ・戦前の協会機関誌「籠球」より
1935（昭和 10）年 第 12 号 東海支部主催 第 3 回東海職業別大会（於 YMCA）
大同製鋼優勝
1935（昭和 10）年 第 13 号 5/16 名古屋戦 全名古屋アメリカオールスター
東海支部主催 第 5 回創立記念大会 女子部（名古屋市三女）6 チーム
参加 男子中等部（名中）10 チーム参加
第 1 回名古屋大学高専リーグ（名古屋中学・八高）優勝八高
1935（昭和 10）年 第 14 号 10 月東海支部中等学校リーグ戦
東海女子中等学校リーグ戦

・・

愛知県バスケットボールの歴史は、1902（明 35）年名古屋 YMCA が設立されてバスケットボールが行われたことに始まる。1921（大正 10）年名古屋 YMCA チームが発足、県下に広くバスケットボールの競技が普及していく。1925（大正 14）年名古屋 YMCA チームは第 5 回全日本総合選手権大会に参加、同年女学校のチーム数が 11 校になり「東海女子藍球協会」が結成される。その後 1927（昭和 2）年に第 7 回大会に八高が参加するなど YMCA チームから徐々に学校単位、中学リーグ戦、職業別大会などが盛んになり 1929（昭和 4）年愛知藍球連盟を結成、1930（昭和 5）年愛知藍球協会に改称、同年 11 月大日本スケツトボール協会東海支部となる。

以上

高校籠球ふるさと記（愛知県編）

[歴史部]

愛知県のバスケットの歴史を語る場合、最初に思い浮かぶのは、戦前の女性王国愛知の活躍、1931年の第1回全日本女子選手権、および翌第2回大会での淑徳高女の連続優勝であり、明治神宮第5回、第6回大会での淑徳高女の連続優勝である。1958年以降の愛知県高校女子の全国レベルでの活躍と通底するものがあると思われる。

さて戦後であるが、その嚆矢は、1945年の曾我一夫ら戦前の役員6名による「愛知籠球協会」「東海籠球協会」の復活と日本協会への加盟である。1948年には滝兵右衛門を会長に迎え、「愛知籠球協会」を「愛知バスケットボール協会」と改名して、安定と振興に弾みをつけるところとなった。1949年には戦後、第一回のインカレを誘致開催した。加えて忘れてはいけないのが、後述の矢田香子の存在である。1967年に、岡崎市で「子どもバスケットボール教室」を開き、「礼儀作法から基礎体力作り」とその指導理念が重視され、多くの保護者の共感を得た。これがきっかけとなり、県内各地にミニバスが普及した。この子供たちが成長し、今日のバスケット王国愛知の礎を築いたと言えよう。

このような歴史と伝統を誇る愛知県のバスケットであるが、本誌では1948年(昭和23年)から1988年(昭和63年)迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、愛知県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には愛知バスケットボール協会創立75周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。(なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、高校名は原則略称)

先ずは、男子であるが、大きくは5つの期間に分けることができる。

第一期(1948年～61年) インターハイには1校出場

前半(57年まで)は惟信と明和の強さが目立った。インターハイには惟信が4回、明和が3回、その他では菊里と東海が各1回出場。後半は東海と豊橋東の強さが目立ち、インターハイには各3回、その他では時習館と横須賀が各1回出場。

この時期、活躍した選手、特に商業、工業高校出身の有力選手の多くが、地元の三菱電機、トヨタ自工、愛知機械、豊田通商、東レといったその後、日本の実業団バスケット界を牽引する企業に就職した。バスケットを続ける中でその基礎固めをしていったといっても過言ではない。この時期、活躍し、大学進学後もプレーを続けた選手では、堀本(瑞陵52-東京教育大-中京女子大教授:国際審判員としても活躍)、小野(旭丘60-東大)、稲吉(豊橋東61-芝工大)、八木(時習館62-芝工大)らがいる。

第二期(1962年～69年) インターハイには2校出場

インターハイには中京商業が5回、豊橋東が4回、一宮が3回、瑞陵が2回、名古屋西と千種が各1回出場。67年のインターハイでの豊橋東の準優勝は特筆、賞賛に値する。この時期も前期同様、地元で活躍した多くの選手が地元の有力企業に就職していった。

代表例を挙げれば、浅井(中京商66-トヨタ自工-選手引退後、男子部コーチ、女子部監督

を歴任)がいる。

この時期、活躍し、大学進学後もプレーを続けた選手では、杉浦（中京商 63-中京大-アイシン精機：コーチ・監督・部長を歴任、日本協会理事男子強化部長も歴任）、元川（南山 63-慶応大-日立本社）、山田（名古屋西 66-東京教育大）、本多（西尾 66-東京教育大）、朝倉（岡崎 67-東京教育大-日本電装）、木村（豊橋東 68：3 年次インターハイ準優勝-東京教育大-安城学園短大付属高教諭-愛知学泉大監督：83 年インカレ優勝、85 年ユニバーシアード女子監督）、森（名古屋西 69-東京経済大）らがいる。

第三期（1970 年～73 年）インターハイには 2 校出場

前半（70、71 年）は滝と豊橋東が競い合い、後半は滝と岡崎城西と名城大付属が競い合った。インターハイには滝が 4 回、豊橋東が 2 回、岡崎城西と名城大付が各 1 回出場。この時期も前期同様、地元で活躍した多くの選手が地元の有力企業（アイシン精機、愛知機械等）に就職していった。

この時期の著名選手としては、清水茂人（豊川工業 71-中京大-日本鋼管）がいる。実業団で活躍する他、オリンピック予選やアジア選手権の日本代表としても活躍した。

この時期、活躍し、大学進学後もプレーを続けた選手では、福井（桜ヶ丘 71-日本体育大）、岡島（中京 71-中京大）、三井（半田商 71-中京大）、鈴木（豊橋東 72-慶応大）、山本（東海工 72-東海大）、浅井（中京 73-大体大・76 年から名電工のコーチに就任、89 年の選抜大会でチームを優勝に導いた）、光田（滝 73-大商大-松下電器）、岩崎（東海工 74-東海大）らがいる。

第四期（1974 年～76 年）インターハイには 2 校出場

豊橋東と名古屋電気工業（76 年からは名古屋電気）の 2 強時代。インターハイには各 3 回出場。

この時期、活躍した選手では、太田（名城大付 74-中京大）、伊与田（西尾 75-日体大-愛知県教員-愛知学泉大教授：女子部ヘッドコーチ・監督）、森田（豊橋商 75-大東文化大）、小林（愛知 75-京産大-愛知機械）、松広（滝 75-名古屋大）、加藤（豊橋東 76-中央大-トヨタ自動車）、高柳（名城大付 76-法政大）、渡辺（名電工 76-明治大-三菱電機）、山田（瑞陵 76-名古屋大）、小野田（西尾 76-名古屋大）、高木（名電高 77-明治大）、西片（豊橋東 77-中央大）、瀬尾（滝 77-中京大）、深谷（半田 77-名古屋大）、網田、服部（ともに旭丘 77-名古屋大）、佐々木（菊里 77-一橋大）、長谷川（滝 77-一橋大）らがいる。

第五期（1977 年～88 年）インターハイには 2 校出場

この時期から全国レベルでの活躍が目立ってきた。名古屋電気（83 年から愛工大名電）が圧倒的な強さを誇り、インターハイには 15 回連続出場、81 年にはベスト 8、82 年、88 年にはベスト 4 入りしているのは、特筆、賞賛に値する。これに次ぐのが、東海工業でインターハイには 7 回出場、87、88 年と連続してベスト 8 入りしているのは賞賛に値する。その他では、名城大付が 2 回、中京商業、千種、愛知が各 1 回出場。85 年の愛知のベスト 8 入りは、賞賛に値する。

この時期の著名選手としては、加藤千豊（名城大付 79-筑波大-住友金属）と古田悟（愛工大名電 90-日体大-三菱電機・トヨタ自動車）がいる。加藤は五輪アジア予選、アジア選手権、ユニバーシアード日本代表。古田はアジア選手権、ユニバーシアード日本代表、江戸川大学講師・監督、社会人女子チーム、横浜ビー・コルセアーズの H コーチも歴任。

この時期、活躍した選手では、森（名電高 78-明治大-豊田通商）、加藤（名電高 78-日本大-愛知機械）、柴田（滝 78-中央大-東芝）、伊神（滝 78-東大）、新美（知多 78-中京大）上田（名城大付 79-法政大-マツダオート東京）、加納（名電高 79-日本大）、杉浦（豊橋東 81-大商大-熊谷組）、井元（名電高 81-日本大）、斎藤（名電高 81-中央大-トヨタ自工）、清水（東海工業 82-アイシン精機）、山田（名電高 82-専修大）、林（向陽 82-筑波大）、江口（滝 82-専修大-三菱電機）、山田（名電高 83-拓殖大）、岡嶋（名電高 83-三菱電機）、青木（名電高 83-中央大-日本電装：高校・大学時代主将・学生選抜メンバー）、後藤（名電高 83-専修大）、小澄（愛知 83-名城大-マツダオート東京）、出原（向陽 83-筑波大-愛知県協会理事）、宮澤（千種 83-一橋大-東京海上）、加藤（愛工大名電 84-京産大-アイシン精機）、楊（愛工大名電 84-拓殖大-大和証券）、水野（瀬戸 84-専修大-熊谷組）、長谷川（千種 84-一橋大）、藤原（滝 84-亜細亜大）、林（惟信 84-芝工大）、斎藤（半田 85-筑波大-日本電装）、石垣（愛工大名電 85-大商大-三菱電機）、早久間（愛工大名電 85-大商大）、志賀（春日井 85-名古屋大）、青山（愛工大名電 86-法政大-三菱電機）、浅井（愛知 86-京産大-三菱電機）、谷川（一宮 86-名古屋大）、佐野（千種 86-名古屋大）、高橋（半田東 86-名古屋大）、井元（愛工大名電 87-京産大-アイシン精機）、林（旭丘 87-名古屋大）。

更に、水谷、鶴山（ともに愛工大名電 88-愛知学泉大-日本電装）、志賀（岡崎城西 88-愛知学泉大-日本電装）、乗本（東海工 88-日本電装）、宮川（中京商 88-愛知学泉大）、小林（時習館 88-名古屋大）、江畠（東海工 89-筑波大-トヨタ自動車）、三田村（東海工 89-国士館大）、松永（滝 89-青学大）、内山（豊橋西 89-名古屋経大）、常田（中部第一 89-日体大-中部第一教諭）、天野（愛工大名電 90-日大-ジャパンエナジー）、渡辺（愛工大名電 90-日大-豊田通商）、今村（愛工大名電 90-大東文化大）、濱崎（岡崎城西 90-日本電装）らがいる。

次に、女子であるが、大きくは5つの期間に分けることができる。

第一期（1948 年～55 年）インターハイには1 校出場（50 年は記録なし）

前半（48～52 年）は岡崎市立【52 年からは県岡崎北】、後半（54～55 年）は岡崎が活躍。インターハイには岡崎市立が3 回、岡崎が2 回、そのほかでは椋山女学院と時習館が各1 回出場。

第二期（1956 年～62 年）インターハイには2 校出場

インターハイには椋山女学院が5 回、岡崎が4 回、高蔵女子商が3 回、名古屋女子商と名古屋西が各1 回出場。岡崎の 58 年、59 年の連続ベスト8 入り、高蔵女子商の 61 年のベスト8 入り、椋山女学院の 62 年にベスト8 入り、更には 62 年に初出場の名古屋女子商のベスト8 入りといずれも賞賛に値する。その後の愛知県女子の全国レベルでの活躍の萌芽が見とれる時期と言えよう。

この時期、活躍した選手では、佐藤（椋山女学院 58-三菱電機名古屋）、佐藤、西脇、山本、藤井（ともに岡崎 59）酒井（岡崎 60-三菱電機名古屋）、清水（岡崎 60-東レ愛知）、米田、鈴木、岡田、（ともに岡崎 60）、鎌田（名古屋西 61-東京教育大）、伊藤、石田、小山、恒川（ともに高蔵女子商 62）、宮下（名古屋女学院 62-日体大）、佐藤、横井（ともに名古屋女子商 62-トヨタ自動車）、加納、安岡（ともに高蔵女子商 63-トヨタ自動車）、吉田（名古屋女子商 63-トヨタ自動車）、山口、島田（ともに名古屋女子商 63-三菱電機名古屋）、岡田、田中（ともに安城学園短大付 63-安城学園短大）らがいる。

第三期（1963 年～77 年）インターハイには2校乃至3校が出場

名古屋女子商（72 年からは市邨学園）と安城短大付の2強時代。名古屋女子商は65、66 年を除きインターハイに連続出場、63 年、68、69、70 年と4回全国優勝を飾り、64 年にはベスト8、71 年には第3位、77 年には第4位と特筆、賞賛に値する戦績を残している。安城短大付も75 年を除きインターハイに連続出場、66 年には全国優勝、64 年にはベスト8、65 年にはベスト4、68 年には第3位と特筆、賞賛に値する戦績を残している。両校以外では、高蔵女子商【72 年からは市邨学園高蔵】が4回、蒲郡が2回、桜ヶ丘と守山女子が各1回インターハイに出場。72 年の蒲郡のベスト8入りは賞賛に値する。

この時期の著名選手としては、青木修（おさむ）（安城短大付 64-安城短大-日本興業銀行）と岡田洋子（安城短大付 64-安城短大-日本勧業銀行）がいる。青木は1967 年のユニバーシアード、1968 年のアジア選手権の日本代表。岡田は1967 年のユニバーシアード日本代表。

この時期、活躍した選手では、田中（安城短大付 64-東レ愛知）、福井（豊橋商 64-トヨタ自動車）、佐藤（安城短大付 64-トヨタ自動車）、細井（岡崎 64-日女体大）、長谷川（安城短大付 65-日女体大）、太田瀬、浅野（ともに安城短大付 65-安城短大）、石井（正）、石井（英）（ともに安城短大付 66-安城短大）、加藤（名古屋女子商 66-日女体大）、鈴木（千種 66-日体大）、北野（向陽 66-日体大）、安藤、梅村、奥田、小田（ともに名古屋女子商 66-市邨短大）、松本、関、奥村（ともに高蔵女子商 66-市邨短大）、三輪（中京女子 70-中京女子大）、三浦（名古屋女子商 70-大体大）、荻原、青山、蒲、森（ともに名古屋女子商 71-大体大）、小島（一宮女子商 71-東レ愛知）、浦野（安城短大付 71-東レ愛知）、水谷（名古屋女子商 71-日本電装）、鈴木（桜ヶ丘 71-日本電装）、近藤（岡崎商 71-日本電装）、永井（安城短大付 72-日本電装）、鈴木（美）、稲葉（ともに名古屋女子商 72-日本電装）、竹内（半田商 72-日本電装）、鈴木（和）（名古屋女子商 72-中京女大）、加藤（名古屋女子商 72-大体大）、太田（高蔵 72-市邨学園短大）。

更に、佐野（桜ヶ丘 73-日本電装）、青山（岡崎商 73-日本電装）、稲吉（蒲郡 73-日本電装）、水島（安城短大付 73-安城学園大）、尾崎（蒲郡 73-東京女子体大）、横山（安城短大付 74-日本電装）、山本（蒲郡 74-日本電装）、金本（安城短大付 75-安城学園大）、上田、小島（ともに滝 75-安城学園大）、大橋（市邨学園 76-樟蔭女子短大）、武元（高蔵 76-樟蔭女子短大）、林（市邨学園 76-中京女子大）。大野（高蔵 77-樟蔭女子短大）、柴田、山中（ともに市邨学園 77-市邨学園短大）、渡会（安城短大付 77-安城学園大）、加藤（津島 77-筑波大）、栗木（小牧 77-中京大）、加藤（惟信 78-中京大）、村瀬（市邨学園 78-日立戸塚）、鈴木、佐々木、大長、山田（ともに安城短大付 78-安城学園大）らがいる。

第四期（1978 年～82 年）インターハイには2校出場

市邨学園が79 年を除き、インターハイに連続出場、81 年にベスト4、80 年と82 年にベスト8入りしているのは特筆賞賛に値する。これに次ぐのが星城で3回、市邨学園高蔵が2回、聖霊が1回、各インターハイに出場。

この時期、活躍した選手では、森田、花田、秦（ともに星城 79-市邨学園大）、木塚（愛知淑徳 79-日体大-日本航空）、堀口（市邨学園 79-日体大）、神谷（星城 79-シャンソン化粧品）、横山（市邨学園 79-市邨学園短大-日立戸塚）、大宮（市邨学園 79-日立戸塚）、小森、粕谷（ともに市邨学園 80-市邨学園大）、滝口（星城 80-市邨学園大）、松波（愛知商 80-中京女子大）、高木（市邨学園 80-筑波大）、後藤（津島 80-中京大）、藤井（岡崎商 81-愛知学泉大-日本航空）、吉岡（星城 83-名古屋経大-三菱電機名古屋）らがいる。

第五期（1983 年～88 年） インターハイには2 校乃至3 校が出場

名古屋短大付属（後の桜花学園）の1 強時代の到来。インターハイには6 年連続出場。83、84 年のベスト8、85 年のベスト4、86、87 年の優勝、88 年の準優勝と特筆賞賛に値する戦績を残している。これ以外では市邨学園高蔵が3 回、市邨学園が2 回、星城と対馬女子が各1 回、インターハイに出場。88 年の星城のベスト8 入りは、賞賛に値する。

この時期の著名選手としては、大内博恵（名古屋短大付 88-愛知学泉大-第一勸銀）、村上睦子（星城 89-シャンソン化粧品）、竹内高美（名古屋短大付 90-愛知学泉女子短大-シャンソン化粧品-トヨタ自動車）がいる。大内は 1991 年ユニバーシアード日本代表。村上は、シャンソン時代、ポイントガードとしてWリーグ 10 連覇に貢献。1996 年のアトランタ五輪代表。竹内はシャンソン時代、Wリーグ 10 連覇に貢献、1990 年の世界選手権、1992 年のアジア選手権日本代表。

この時期、活躍した選手では、戸巻（市邨学園 84-三菱電機名古屋）、田辺広子（名古屋短大付 85-日立戸塚-積水化学）、石川（安城学園 85-愛知学泉大）、柿野（名古屋短大付 85-中京大）、鵜飼（津島女子 85-中京大）、岡元（星城 85-名古屋経大）、寺田（津島女子 85-日体大）、大森（愛知商 86-三菱電機名古屋）、伊藤、松井（ともに名古屋短大付 86-三井生命）、水谷（市邨学園 86-中京大）、小島（滝 86-中京女大）、光岡（高蔵 86-中京女大）、岩本（星城 86-中京女大）、小川、佐々木（名古屋短大付 86-日立戸塚）、石川（安城学園 86-愛知学泉大-日本航空）、山崎（名古屋短大付 86-筑波大-日本航空）、鹿島（名古屋短大付 86-東海大）、小島（名古屋短大付 87-日本興業銀行）、小嶋（名古屋短大付 87-鹿屋体大）、伊藤（時習館 87-鹿屋体大）、浅井（名古屋短大付 87-中京大）、朴（星城 87-名古屋経大）、藤原（安城学園 87-中京女大）、稲葉（高蔵 87-中京女大）、中野、成田（ともに星城 87-日本電装）、大内（名古屋短大付 87-日立戸塚）。

更に、石田（名古屋短大付 88-筑波大）、石黒（名古屋短大付 88-愛知学泉大）、横野（名古屋短大付 88-名古屋経大）、近藤（高蔵 88-名古屋経大）、鈴木（名古屋短大付 88-三井生命）、石黒（名古屋短大付 88-愛知学泉大-日本航空）、根木（安城学園 88-愛知学泉大）、黒川（津島女子 88-日体大-三菱電機名古屋）、水野（名古屋短大付 88-日本興業銀行）、澤田（星城 89-中京大）、野田（名古屋短大付 89-日立戸塚）、日比、西野（ともに名古屋短大付 89-東芝名古屋）、山口（名古屋短大付 89-日本電気）、山本（名古屋短大付 89-三井生命）、島（名古屋短大付 89-日本電装）らがいる。

<コーチ・指導者>

- ・矢田 香子 1914 年愛知県生まれ。岡崎市立高女（後の岡崎北高）から日本女子体育専門学校を経て岡崎市立高女、岡崎高校、岡崎女子短大教授を歴任。1936 年から 40 年にかけて日本選手権やり投げで5 連覇。36 年には5 種競技でも優勝。37 年母校の岡崎高女に赴任、バスケット部顧問として指導。戦後も 54 年から 59 年までの岡崎高校（女子）のインターハイ連続出場、58 年、59 年のベスト8 入りに監督として導いた名将。49 年には女性初の公認審判員となる。
- ・新井 春生 1923 年島根県生まれ。島根師範学校を卒業後、安来一中や安来高校などで指導。1957 年の静岡国体では安来高校（女子）を全国優勝に導いた。1965 年に新天地愛知県の安城短大付属高校に移り、同校を国体、インターハイ優勝に導いた名将。1974 年には市邨学園短大をインカレ優勝に導いた。バスケットに関する著作も多く、そこには独特の「新井哲学」が盛り込まれている。いわく「練習とはできないところの繰り返しであり、できるところの反復ではない」

- ・井上 眞一 1946 年愛知県生まれ。中村高校から早稲田大理工学部卒。楠木中、守山中で 1980 年から全中 6 連覇。86 年から名古屋短大付属高校（現桜花学園）の教諭、監督。88 年のインターハイ初優勝以来、インターハイ、国体、ウィンターカップの高校年間 3 冠 7 回を含め、30 回を超える全国大会での優勝を成し遂げ、多くの全日本代表選手を送り出している名将。88 年から 2013 年まで U18 女子日本代表ヘッドコーチを務める。2023 年、日本バスケットボール殿堂に表彰される。

<協会関係者>

- ・歴代の会長・理事長（1948 年—1988 年）

滝 兵右衛門	会長	1948 年—61 年
二村 正郎	理事長	1948 年—58 年
太田 裕祥	理事長	1959 年—62 年
相馬 貞蔵	会長	1963 年—77 年
太田 裕祥	理事長	1963 年—64 年
横竹 次郎	理事長	1965 年—73 年
太田 裕祥	理事長	1974 年—76 年
伊藤 敬一	理事長	1977 年—77 年
太田 裕祥	会長	1978 年—
伊藤 敬一	理事長	1978 年—83 年
中井 宗康	理事長	1984 年—

<その他>

最後にちょっといい話を披露させていただきます。

題して『尾張名古屋に 4 校リーグあり』

1953 年度から 55 年度まで明和高校に在籍、54 年、55 年とインターハイに出場された三谷千尋氏の寄稿文（弊社機関誌「バスケットボールプラザ 72、73、74 号：2016—2017 年に掲載）から一部引用させていただきます。

『現在の華やかな愛知県の高校バスケットの世界とは別に年 1 度の大会で連続 67 回（2016 年当時）その火を消すことなく静かに無私無欲でその交流を楽しむ活動を続けている高校バスケットの世界があることを紹介させて頂きたい。はなしは 1948 年の学制改革に伴う新制高校の発足と学区制の導入。戦前の愛知一中で活躍していたメンバーは旭丘高校と校名が変わっても県下での優勝を目指し、活動を続ける矢先に実施された通学区政の導入により、その夢は絶たれ、以下の 4 校に分かれて通学することになった（県立旭丘、県立明和、市立向陽、市立菊里）。優勝を目指していたメンバーにとっては耐えがたきものがあり、早速、1949 年には 4 校への分散を記念して「4 校リーグ」と称する対抗戦を立ち上げ、叶わなかった夢を後輩たちに託した。当時、体育館のあった菊里に転校した生徒も多く、1949 年には県下で優勝を果たしている。その後、1954、55、57 年には明和が県下優勝を果たしている。』

以上

【編集後記】

今回、愛知県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理の面で、一般財団法人愛知県バスケットボール協会（2015 年 12 月法人格取得）様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

[人物抄] 清水英樹

～ 昭和初期の体操専科教員

番町小学校で体操・バスケットボールを指導 ～

[歴史部]

昨年 12 月 4 日に開催された臨時総会後の講演会に参加された東京学芸大の岩見先生より、昭和初期に千代田区番町小学校（※）でバスケットボールの指導を行っていた「清水英樹」さんの消息について質問がありました。その内容は、大学院で「体育科学」を専門とする鈴木秀人教授から依頼があり、1936（昭 11）年秋に開催された番町小学校の運動会の映像が残っており、その中で体操の指導をしている人物が清水英樹さんではないかとの問い合わせでした。鈴木教授の調査によると過去に発行された「バスケットボールプラザ」に掲載された記事に「昭和の初期の番町小学校でバスケットボールを指導していた清水英樹さん・・・」との文章があり、振興会の会員にご存じであれば確認したいとのことでした。

（※）「番町小学校」：1871（明 4）年創立された東京で最も古い歴史と伝統のある小学校

その後、清水英樹さんのご子息で振興会会員の「清水英邦」さんと連絡をとり、1 月 14 日（日）鈴木教授と小田急線狛江駅で待ち合わせて、清水さんとお会いしました。

ここに、清水英邦さんからお聞きした清水英樹さんの情報を紹介します。



左：清水英邦さん 右：鈴木教授

「清水英樹」さん （1910（明 43）年 12 月 20 日—1985（昭 60）年 9 月 26 日）

1928（昭 3）年長野県屋代中学校（現屋代高校）卒業、1930（昭 5）年 3 月 27 日東京市教員養成所養成科卒業、同時に東京府小学校免許状を取得。同年 3 月 31 日東京市御田小学校訓導に任ぜられ、1934（昭 9）年東京市番町小学校に異動、文部省から体操の「専科正教員」を命じられる。

清水英樹さんは、呉服商を営んでいた実家のある長野県屋代から上京、好きなスキーを続けたいとの思いがあり、教師となることを考えて教員養成所を卒業。その後、1934（昭 9）年千代田区番町小学校の体育専科の教員となる。教育現場で専科の教員は、音楽、図工などが通常であり、体育の専門学校の出身でない人物が小学校の教員となったこと、しかも小学校で体育専科の教員となったことは、当時の番町小学校の岡井校長の英断によるものであり、文部省でも初めてのことであった。

番町小学校が、全国に先駆けて小学生の体操指導に専科教員を設けたことは、画期的なものと評価される。

その後、スウェーデン体操を学び、開催が中止された 1940（昭 15）年東京・オリンピックの体操競技の代表選手を目指し、「三橋体育研究所」でスウェーデン体操を学んだ。1936（昭 11）年秋に番町小学校で開催された運動会の映像を確認すると小学生の授業段階のレベルでは、かなり高度な跳躍や回転、組体操などの実技演技を行っている。（1936（昭 11）年の体操を指導している姿を清水英邦さんが自分の父親の「清水英樹」さん本人であることを確認した。）研究所では、「バスケットボール」の実技も学んでいる。軍事訓練の行進の場面もあり、戦時色を高めている時代に、番町小学校で小学生にバスケットボールやスキーの指導も行っている。

日本協会会報「籠球第 20 輯（昭 12.8）」によれば、1937 年協会は、3 年前から研究調査委員会に一任し、小学生籠球の指導研究に力を注いでいる。東京のバスケットボール指導者を集めて「小学校指導者講習会」を番町小学校で開催。近代的バスケットボールというものを説明し、実際に練習しチームの形成に必要な手順を 3 日間に分け、1 日に 3 時間の講習を行った。平日の夜でありながら、東京全体から毎日 100 人から 80 人以上の参加があり、東京では、大学以外に競技者の養成に熱が欠けているとの考えを持っているものが多いようだが、今回の講習会により、必ずや近い将来華々しい発展を示すのではないかと確信したという。清水英樹さん（番町）、高山弘明さん（神田）など数名がこの講習会開催に協力している。

〈講習会の内容〉

- 第 1 日 個人の基礎（2H） 歴史と競技要項（1H）
- 第 2 日 個人の攻防（2H） 判定法の理論と実際（1H）
- 第 3 日 団体の攻防（2H） フィールドコーチ（1H）

1942（昭 17）年清水さんは、文部省体育指導主事となり、全国の小学校を巡回訪問し体育の授業指導も行っている。教科として採用した「体操」「水泳」「バスケットボール」の 3 競技の根拠は、下記の通りと考えている。

体操……基本的な身体の使い方を体得できる

水泳……非日常的な行動をつかむことができる

バスケットボール……団体競技で「投げる」「走る」「取る」「跳ぶ」など人間の行動のすべての要素を含み、かつ身体の接触を禁止されていることから怪我の少ないこと

バスケットボールの体育授業の採用に際し、三橋体育研究所時代からの知り合いで当時東京大学のコーチであった「畑龍雄」氏に相談している。畑氏は、バスケットボールの普及が重要と考え、特に大会の運営について、各大学や高校のバスケットボール部の学生を動員し「東京府籠球選手権大会」の開催に協力している。

体操の授業の発案者である米本卯吉氏（当時、千代田区教育長）は、戦後、日本体育大学を設立した。バスケットボールの授業の採用にも貢献した畑氏との協力関係は、戦後も続くこととなる。

戦後、文部省の外部団体の（財）日本教育用品が設立され、1945年から1951年まで配給となっていた教科書、文房具、靴などを、当時この会社が一手に取り扱っていた。このころ、清水は、主に体育団体に助成金を出す仕事をしていた。

「畑氏と清水さんの協力関係」は、教育用品在職中、畑氏が学連をまとめていた時代に、協会は機関誌を発行しており、この紙と印刷の手配や機関誌の全国の学校への配送などを清水さんが協力して行った。戦後の混乱時、体育団体の仕事をする人がほとんどいなかったため、体育団体としても助成金の窓口であった清水さんは便利な存在であり、日本バスケットボール協会だけでなく、水泳、体操などの協会の理事もしていた。

バスケットボールの発展の歴史の節目における畑龍雄氏の存在は忘れてはならない。

バスケットボール関係では、日本協会、実業団、都協会、杉並区協会などの理事を歴任し、東京都バスケットボール協会では畑龍雄氏（初代理事長）を継いで、2代目理事長になった。1951（昭26）年日本教育用品での配給制度が終了し、また、各団体にも本来の役員が戻り始めたこともあり、本来やりたかったスキーの指導に没頭するようになった。

昭和初期に、日本で初めての「体操の専科教員」として千代田区番町小学校（旧麹町区）に勤務。当時としては、高度なレベルの体操（スウェーデン体操）とバスケットボールの授業などの指導を実施。「体操の専科教員」としてバスケットボールの「学校体育」採用につながる流れにも貢献、戦後も、多くの協会役員と交流し、バスケットボールの普及と復興に貴重な役割を果たしている。

最後に、お話を伺った清水英邦さんには、永く会員として振興会の活動にご協力いただいています。この度の「人物抄」作成に際し、確認しご訂正していただきましたこと、また貴重な機会をいただきましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

以上

【人物抄】 松 井 聡

～ 高校生でオリンピック代表に選ばれた日本の名ガード ～

[歴史部]

成城高校、京都帝国大学、神戸学士チームなどに所属し、その間、極東選手権大会代表、ベルリン・オリンピック代表に選手として活躍、戦後は、永く日本協会役員を務めた「松井聡（まついさとし）」氏（福井県福井市出身、1915年3月12日～1995年8月1日）の「バスケットボールの生涯」についてたどる。

1934（昭9）年 第10回極東選手権大会出場
1936（昭11）年 ベルリン・オリンピック出場
1938（昭13）年 第1回東洋選手権出場
1947（昭22）年～1948（昭23）年 全日本選手権優勝など
1967（昭42）年～1968（昭53）年 日本協会理事就任
1979（昭54）年 専務理事就任
1981（昭56）年 創立50周年記念事業を実施終了後、
協会役員辞任



日本協会 50 年史より

成城高校時代

中学生時代（東京府立5中、現都立小石川高校）、サッカーの選手だった松井がバスケットボールに180度転向するには、理由があったものの、気狂いぶりを知る人にはまさに思い半ばに過ぎるものがあった。最初の一年は、ろくにボールを投げられず、ベンチを暖めていた松井を一人前のバスケットプレイヤーに育て上げたのは当時の成城高校の雰囲気にあった。入部最初のユニフォームの番号は11番でライトブルー地に白字で馬蹄型のSEIJOHIGH SCHOOLと書いたスマートなもの。2、3年を通じて5番に上がった。第10回極東選手権大会（マニラ）、19歳の高校生の私は1番の若手で、牧山（早大）主将の3番から始まるどん尻の24番であった。マニラで作ったこのユニフォームはアメリカ・リーチ社製の濃赤の毛でできたものであった。1936年ベルリン・オリンピック大会の時のスタートメンバーは、年齢順に7番前田（F立大）、8番鹿子木（C東大）、9番松井（G京大）、10番宗像（G早大）、11番横山（F早大）。その後の松井はフィリピン遠征などで3番が多かった。

1931（昭6）年の全国高校籠球選手権大会は、京都一中で開催され、3年生4人に2年生の中江の5人で初優勝した。1年生の松井らは専らベンチで大声を張り上げ声援に終始した。全国高等専門学校籠球大会も優勝。

1932（昭7）年の大会は東京文理大で開催され、3年主将のセンター中江、2年生の竹内、加藤、増山、松井などで1回戦から決勝戦の対武蔵高校までの試合は圧倒的強さで連勝し、全国高等専門学校籠球大会も成城が連続優勝した。

1933（昭8）年は、中江が卒業し、3年生になり、成蹊高校に敗れ、センター中江の力があまりにも偉大であったことを再認識した。この年は、長身鹿子木を擁する武蔵高校、

成蹊高校、東京高等師範などが台頭し、その実力は関東の大学を脅かすほどの実力で成城高校は無冠に終わった。

この年、春から夏にかけて成城学園は時の学園長小原国芳先生の運営方針に、一部の父兄と教師が反発して当時としては珍しい“教員スト”が行われた。生徒は、毎日弁当を持って登校するが先生は不在で休講、そのまま新装なった体育館に直行し、1 日中ボールと戯れていた。勉学の方はサッパリだったが、バスケットの方は長足の上達をみせた。当時 7 万円を投じて建設され、学園の騒動の主因となり結果的に小原校長を玉川学園に追いやるキッカケにもなったこの体育館は、バスケットの開眼に大きく寄与してくれたことを考えるとバスケット部員にとって感無量の思いがある。この年は、無冠に終わったが、現にこの年の全日本東京予選決勝では、優勝チームの早稲田大学を窮地に陥れ、延長戦で敗れるまで実力が向上した。この結果、松井はこの実績から弱冠 18 歳の高校生ながら 1934（昭和 9）年第 10 回極東選手権大会（マニラ）の日本代表選手に選ばれた。

1933（昭和 8）年南カルフォルニア大学のジャック・ガードナーとサニー・アンダーソンの両コーチが来日した時、東京 YMCA 体育館で講習会が行われ、「組織的チームプレー」の講習を高校生でありながら受講している。

京都帝国大学 入学

1934（昭和 9）年、松井は身分不相応にも東大工学部を受験してクラスの 7 名と共に見事不合格。最終学年の実情がバスケット三昧であれば当然の帰趨だったと思う。

極東選手権大会（マニラ）遠征中の数週間、松井は熱帯地の真夏の強烈な直射光線で目を傷め、ひどい遠視性の乱視ということで医者から細かい文字の読書を禁じられて試験勉強をあきらめた。その時に京大進学を決意し、兼ねてから京大進学入学を強く勧められていた、時の京都府立一中教頭の山根先生や成城 0B で京大の三橋先輩などに義理が果たすことができた。

京都帝国大学 第 1 期黄金時代

1935（昭和 10）年アメリカのオールスターチームが初来日した際、松井は全日本代表と全学生代表チームと掛け持ちで試合をし、京都府立一中のコートでは、KIU（京大）のユニフォームを着て対戦した。京大では 4 シーズンプレーし、戦前の 3 年制（医学部のみ 4 年制）の中で 1 年プレミアムがついて学生連盟で物議を醸したこともあった。

当時、京大は、三橋先輩（1933 年卒）から岩尾先輩（1935 年卒）にかけて、第 1 期黄金時代で関西では不敗の強豪チームを誇っていたが、学生界の全国制覇はできなかった。

京大在学中、関西学生リーグの試合は、甲子園球場の内野スタンド下の室内コートで行われた。特に同年秋の関学との死闘は、今日でも記憶も新たに、関西では初陣の大会でもあり、極東選手権大会代表選手の面目にかけても頑張ったが、朝日新聞に「独り神技に近い活躍を示したが…戦利京大にあらず関学に名を為さしめた。」と報じられた。

1935（昭和 11）年ベルリン・オリンピック参加から海路 38 日を費やして神戸に帰港した時、京大は既に 4 戦全敗（相手は甲南と神戸高商だったと思う）。松井がチームに戻ってからは浪高に 1 敗したがその後 6 戦全勝、優勝チームの関学にもストレート勝ちしたが、2 位になり東西対抗戦には残念ながら出場できなかった。

1936 年（昭 11）ベルリン・オリンピックの活躍

ベルリン・オリンピックの試合は、アウトドアーでおこなわれる為、東大のアウトのコートを練習場とし、神田駿河台（日昇館）から、毎日駆け足で本郷のコートまで往復した。この大会は日頃慣れた国際ルールでない特殊のフレンチルールが採用された。三橋コーチの役割は、試合の前日に出場メンバー 7 名を届け出する事、前半の反省と後半の作戦くらいのもの。交代は 1 回限り、センタートスは前後半 1 回限り、3 秒ルールは未だなかった。初戦の対中国戦は、皮肉にもアジアの 2 強がヨーロッパで対戦するとあって興味をもたれ、1 人制審判であるカナダのパワーズレフェリーのもと、前後半とも安定して圧勝し、2 年前の極東選手権大会の鬱憤を見事晴らした。引き続き 2 回戦はポーランドに圧勝、3 回戦に駒を進めた。ここで最終銅メダルとなったメキシコと対戦する。スタートは順調だったが、長身揃いの相手のゾーンディフェンスを攻めあぐんで僅差の敗退で、結局 9 位に甘んじた。只、2 回戦までは敗者復活戦があり、ポーランドはこれに救われて準決勝まで進み、総合 4 位の成績となった。このようなルールでは三橋コーチもずいぶん苦労したことであろう。私自身もメキシコ戦で後半外側から長投 3 本（いまなら 3 ポイント計 9 点）を決め面目を果たした。この大会の 9 位は、爾後オリンピック順位の最高位、晩年三橋（オヤジ）の自慢の種であった。



ベルリン・オリンピック参加選手団（クロイドン空港にて）

京都帝国大学 第 2 期黄金時代 東西対抗戦

1937（昭 12）年村上宏がキャプテンになり、京大の補強は完璧というべく、第 2 期黄金時代のはじまりであり、関西において敵なく、関西リーグも全勝した。いよいよ久し振りの学生東西対抗（現在のインターカレッジ・プレーオフ）で関東の覇者早稲田大学を京都に迎えて、村上（3 年）、松井（2 年）、新人廉（延禧専門・ベルリン・オリンピック代表選手）、境（成蹊）、小笠原（成蹊）でスタート。これに半田（3 年）、1 年生三浦（山形）、滝口（福岡）を備えて、2 回戦ストレートで横山、宗像（共にベルリン代表選手）の早大を降し、今日まで 6 連敗の汚名を晴らす。ここで、初めてフォーブス杯（当時の駐日アメリカ大使の氏名を冠した東西学生フォーブス杯）を獲得し大いに溜飲を下げた。

1938（昭 13）年余勢を駆って関西を完圧し、東京に乗り込んだ。キャプテンの松井、2 年生の廉、滝口、小笠原に新人で突貫小僧の異名をとった満田久和（浪花）を加え、今度は立教大である。3 回戦を接戦の僅少差で抑え、見事 2 年連続で学生チャンピオンとして大杯を京都に持ち帰った当時の快感は松井にとって今もって忘れられない。

特にこの頃の 0B は次々に兵籍に入りコーチとして残ってくれない。結局、偶々病を患って一線を引いた境（2 年）にベンチを任せ、すべてキャプテンの松井が采配した。朝日新聞のインタビューに「自主性と合議性を生かし、相互信頼の下で勝った」と話した。

京都帝国大学時代 全日本総合選手権制覇の夢ならず

学生界は制圧したものの、最高の願いは全日本制覇である。1935（昭 10）年は全延禧に 22-42、翌年の 1936（昭 11）年は早稲田大学に 29-43 と、両年とも決勝戦で敗れた。全日本は、東京の在任者が中心になり、関西の連中は、在京のどこかに分宿し、運よく決勝戦まで進んだが、最後はぼろが出て完敗だった。

1937（昭 12）年全学生を制覇した後の 2 年は、もちろん優勝候補として心機一転優勝を目指して臨んだが、当時朝鮮の雄、普成専門に苦杯を飲まされた。当時史上まれにみる接戦と称された内容で、残り 3 分京大の 7 点のビハインドは、松井一人で連続 9 得点し、一時 1 ゴールリードするも相手の速攻を止めるため自ら 4 つ目の反則を犯しオミット（当時のルール？）。普成の選手は自由投を 100% 成功させ延長戦に入り、松井はベンチで眺めるのみ、正に壮絶なる延長戦の末敗れる。

普成専門 59（27-21、18-24、2-2、5-4、7-4）56 京大

昭和 13 年も同じような経過を巡り、最後に同点に追いついたが力尽き、最後の延長で大敗を喫して終わった。

普成専門 64（30-23、19-26、15-1）50 京大

名ガード「松井聰」を育てた多くの人たち

大庭哲夫氏、李想伯先生、黒沢威夫氏、土肥一雄氏、浅野延秋氏、信愛なる芦田信三氏、牧山圭秀氏など早稲田の人たちと、恩師三橋誠氏。

1931（昭 6）年成城学園に入学、私はサッカーの選手で、大庭さんが活躍した前年の 1930（昭 5）年極東選手権大会（東京）はサッカー見物をしていた。結局、大庭さんのプレーは大学の 0B リーグで RDR（早大 0B）の選手として李さん、黒澤さん、長澤さんたちと共に東京 YMCA の体育館の 2 階席から眺め、その重厚なガードプレイヤーになりたいと憧れた。

真の育ての親は三橋誠氏（オヤジ）で、高校、大学、オリンピックを通じて公私ともに指導を受けた。まず 1934（昭 9）年 18 歳の高校生を極東選手権大会（マニラ）代表に選り、一人前のガードプレイヤーに育ててくれたのが李相伯先生、チーム監督の黒沢威夫氏、コーチの土肥一雄氏である。

1935（昭 10）年翌年初来日のアメリカオールスターとの対戦の際、再び李さん。1936（昭 11）年のベルリン・オリンピックは、成城・京大の先輩で恩師三橋誠氏のコーチと監督の浅野延秋氏に世話になった。

1938（昭 13）年暮から 1939（昭 14）年 2 月にかけてフィリピン遠征の全日本主将を務め、マニラの大学など総なめにして帰ったが、監督は信愛なる芦田信三氏。京大卒業後 1939

(昭 14) 年春ベルリン・オリンピック準優勝のカナダチームを迎えて全日本軍のキャプテンとして仕えたのが牧山圭秀氏と続くが、結果的に直接大庭さんに実技指導を受けたことはなかった。実は、松井は多くの早稲田の人に育てられたといって過言ではない。

松井の描く指導者像について

多くの経験した名コーチ、名監督として忘れられない人は、ドンチ(土肥氏)と伸ちゃん(芦田氏)の二人。指導を受けた岩尾隆一先輩(京大・神戸学士)もその没私的な性格より、他に得難い何物かを私に体得させてくれた。ドンチは、古いプレイヤーなら誰でも一度は鍛えられたスパルタ式理論家。雑な高校育ちの私は、約3カ月間ハビットプレーとしてのガーディングスタンス、フットワーク、リバウンズプレーを徹底的にたたきこまれた。スタンディングガードとしてのプレーの素地を植え付けてくれた恩人である。伸ちゃんは、過去 20 数年間の選手生活を通じ最も尊敬する監督である。ピックアップチームの選手に対して抱擁力をもって接し、思うところは果敢に決断するまさに不世出の名監督。

日本代表チームは原則ピックアップチームであり、チーム編成にしても 1 カ月程度の期間に個々のプレーそのものの上達は認められるものではない。結局チームの総合力発揮の基盤たるべき選手のコンディションの安定を心身両面より調整し、気候風土の急変、食事の不慣れなど諸問題を手際よく処理していくことこそ監督の最大の任務と言える。

昭和 22 年、23 年全日本制覇 西日本協会設立 大庭哲夫氏との縁

戦後は、関西に在住、京大の先輩の岩尾隆一氏と計り、神戸学士クラブを復活し、阪急電車の好意で西宮体育館を整備してもらい、ここをホームコートとして同好の士が集い、遂に昭和 22 年、23 年度全日本選手権を連覇した。同時に西日本協会を設立、いち早く日本のバスケット界の復活の担い手となり、東京で再出発した日本協会の理事に就任し初めて大庭さんとの接触が生まれた。

大庭体制の退陣と三橋誠などベルリン・オリンピック組が継承

大庭さんは、1953(昭 28)年から 1966(昭 41)年まで日本協会の理事長として、更に日本協会の専務理事も兼務、日本航空の常務の要職に在りながら日本のスポーツ界に多大な貢献をしたが、1967(昭 42)年春大庭内閣はメキシコ・オリンピックの出場権を失った責任を取り総退陣した。

その後、京都大学の先輩三橋誠に誘われ、竹崎、鹿子木、松井などベルリン・オリンピック組が協会の役員として後を継ぐ。ミュンヘン・オリンピック参加を目標に経済界の協力を得て後援会を組織し 5,000 万円を超える協力金を集め、東京に男子 ABC 大会を招致し見事全勝優勝しオリンピック出場の権利を獲得した。

大庭さんはメキシコ・オリンピックの選手団団長を務められ、松井は 11 年後の 1979 年のメキシコ・ユニバーシアード大会の選手団団長を務めて同じ種目出身者として奇縁を感じさせられ、何か大庭さんとは眼に見えぬ絆で結ばれているように感じられた。

最後に、創立 50 周年記念行事 会長：三橋誠 専務理事：松井聰

1981（昭 56）年 3 月日本協会創立 50 周年記念行事を開催、この記念パーティの席上三橋は引退を発表辞任し松井もこれに従った。

創立 50 周年記念誌「バスケットボールの歩み」を刊行、記念誌に寄せて「今日、50 年史発刊を期して、われわれは諸先輩の築かれた基礎を堅固なものとし、将来さらに発展できるよう、一層の努力をいたすべく痛感している次第です」と語っている。

代々木に 40 億円バスケット専用体育館/日本協会が建設を計画 松井専務理事

1982 年完成をめどに日本協会が中心となって収容人員 8000 人のバスケットボール専用体育館を建設する計画があると報じられた（1979. 10. 2 日刊スポーツ）。「日本協会は今後国際試合を行う場合代々木第二体育館では入場できない観客が出てくる可能性があるため協会創立 50 周年に正式発表する予定」と当時の松井専務理事は語っている。

1981 年 11 月第 1 回体育館建設委員会を開催し、体協、大蔵省・文部省（当時）などの当局と具体案を以って折衝したが「行政改革」のことが議題に上がっていたこともあって壁に突き当たった形となり、結果としてその後の進展に至らなかったと「体育館建設運動の経過」として日本協会理事会で遊津専務理事が報告している。

以上

〈資料参考〉

- ・ 京都大学籠球部創立 60 周年記念 懐古帳 パートⅡ 昭和 60 年 6 月 15 日発行
- ・ 大庭哲夫 昭和 58 年 4 月 大庭哲夫追想録刊行会
- ・ 「バスケットボールの歩み」日本バスケットボール協会 50 年史 1981 年 3 月発行
- ・ 「遍歴」 バスケットボール NO. 25 昭和 31 年 4 月
- ・ 「代々木に建設 8 千人を収容 40 億円バスケット殿堂」日刊スポーツ 1979. 10. 2

会員だより



京都バスケットボール協会の設立と 京都バスケット100年の歩み（2）

京都府バスケットボール協会

兒玉 幸長

＝ 協会に新連盟が参画した社会人時代 ＝

1973（昭和48）年、小森の後任に国際審判員として活躍していた「福田利廣」が理事長を務めることとなった。福田は、戦後初代会長の「藤野弥一郎」により審判として強い影響を受けた人物であり、弥一郎の子息の「藤野英雄」を競技委員長に登用した。また、実連理事長であった「国松健一」を副理事長とし、福田、藤野、国松の社会人コンビで協会運営を円滑に推進しようとした。福田理事長時代は、従来の高体連、学連が主導した協会とは異なり、いわゆる教員でない社会人が主体となって協会を運営した時期である。各府県協会がまだまだ教員主体で運営されていた当時、社会人主体の協会運営は特出している。

このことは、京都のバスケット界に新しい風を吹かせ、1974（昭和49）年に会長「深井隆三」、理事長「藤野英雄」により「京都府クラブバスケットボール連盟」が設立される。その流れで昭和57年には遊津日本協会専務理事の尽力で「日本クラブバスケットボール連盟」が京都で設立された。京都で設立した全国連盟はこれが唯一である。

また、1983（昭和58）年には「京都ミニバスケットボール連盟」が会長「細川磐」、理事長「宮崎富久」の体制で産声をあげた。

＝ 京都国体に向け協会が「個人商店」から「会社」組織へ ＝

昭和58年に2巡目国体最初の開催地が京都府に内定し、いよいよ国体に向けて各競技団体の体制整備が求められる。福田に代わり日立大阪の選手として活躍した「藤木秀雄」が理事長として円滑な国体運営を目指すこととなった。

藤木は、企業人としてリーダーシップを発揮するとともに名選手、名指導者や名審判ではない、当時京都府庁幹部で、後に府協会会長を努めてJBA副会長となる「兒玉幸長」などの行政経験豊かな人材を管理部門に登用する。すなわち、協会をいわゆる「個人商店」から「会社組織」として運営することとした。

＝ 京都国体が大成功、京都府がバスケット総合優勝 ＝

1988（昭和 63）年 10 月、京都国体が開催され、成年男女が「優勝」、少年男女が「3 位」と抜群の成績を残し、京都初のバスケットボール競技「総合優勝」を飾った。当時活躍した選手の中には、日本初の 2 メートル選手で同志社大学出身の「沼田宏文」や現在 N B A で活躍する渡邊雄太選手の母親「久保田久美」が京都チームに在籍した。



国民体育大会バスケットボール競技
成功を祝う会
（出典：70 周年記念誌）

1991（平成 3）年「南波道雄」が第 8 代会長に就任し、南波会長、藤木理事長の師弟コンビが協会を運営することとなった。

この頃は国体で活躍した選手層があり、京都が全国で活躍した時代。福岡国体での少年男子の優勝や洛南高校のインターハイ優勝そして教員男子が 2 年連続全国制覇するなど京都のバスケットが全国で開花した。南波会長は指導者として全国でも著名な人であり、京都の男子選手強化が進んだ時代となった。

＝ 京都協会と中国大連市籃球協会が友好提携を締結 ＝
＜石川俊紀理事長と張世戾主席が調印＞

1993（平成 5）年、南波は高校指導多忙の為、一期 2 年で会長を交代することとなり、新会長には「野中広務」衆議院議員が第 9 代会長となる。多忙な野中体制の中での協会運営が円滑に進むよう、1995（平成 7）年の役員改選において野中会長、藤木会長代行、石川理事長の体制となった。

野中会長時代、特に注目されたのは全国の競技団体でも珍しい国際交流が始まったことである。野中会長の人脈から中華人民共和国とのバスケットボール交流の話があり、2000 年 8 月 25 日中国大連市の招待により京都協会幹部と京都中学選抜チームが大連市を訪問



2000 年 8 月 25 日 中華人民共和国遼寧省と
「友好の証」交換 （出典：90 周年記念誌）

した。そこで、大連市籃球協会と京都バスケットボール協会が「友好の証」を交わし、石川理事長と大連市の張主席が友好提携書に調印した。このことは地方協会レベルでは画期的事業である。この国際交流事業は約 10 年続き、各連盟選抜チームが中国大連市を訪問して地元チームとバスケット交流を図った。

= 手塚理事長と審判育成 =

2005（平成 17）年の役員改選において石川俊紀が協会第 10 代会長に選任され、「手塚純」理事長との同い年コンビが誕生した。

手塚は、国際公認審判として全国に名を知られた名審判であり、彼は特に審判育成にその手腕を発揮した。

後に国際公認、A 級等として全国で活躍する蛭子正幸、岩木太郎、伊藤亮介や富島健司などが、当時国際公認審判員として活躍していた「湯浅暢宏」（第 11 代理事長）の指導のもと、京都で活躍を始めたのが手塚理事長時代である。

= 「京都ハンナリーズ」の創設 =

2008 年に洛南高校のウィンターカップ 3 連覇という快挙で京都バスケット界が沸きたち、京都高校男子の最盛期を迎えていた頃、手塚は後任理事長に「兒玉幸長」を指名し、石川会長、兒玉理事長による協会運営が始まった。

二人は「京都のバスケ発展には京都にプロ球団が必要」とし、石川がバスケット界、兒玉が行政マンの人脈を生かして経済界や行政へ必要性を説いた。その結果、「bj リーグ」がスタートの平成 21 年、「京都ハンナリーズ」が創設される。10 月 3 日にハンナリーズの記念すべき開幕戦が京都市体育館において超満員の観客の中で開催された。

このハンナリーズ創設に尽力したのが京都商工会議所役員で「トーセ」会長の「斉藤茂」であり、後に京都協会会長となる参議院議員の「福山哲郎」であつた。



「洛南高校ウィンターカップ
三連覇」を伝える協会報
(Vol. 11)
(出典：90 周年記念誌)

= 米国バスケ発祥の地の大学が認める京都バスケットの伝統 =

2013（平成 25）年、石川は大学指導者に専念する意向を示して副会長で向日市副市長の職にあった「兒玉幸長」を第 11 代会長に指名し、「湯浅暢宏」が引き続き理事長に就任して石川は名誉会長となった。

「佐藤金一」と「FH ブラウン」が京都で出会い、日本に本格的バスケットボールが京都に伝来した 1915 年から数えて 2014 年が 100 年目となり、併せてこの年「京都協会設立 90 周年」を迎えることから、兒玉は、バスケット史の研究者で JBA 理事の「水谷豊」に助言と協力を求めて京都が本格的なバスケット発祥の地であることの検証を行った。そして、「京都がバスケットボール発祥の地」として、2014（平成 26）年の「協会設立 90 周年」を機に京都バスケットの伝統を全国に周知することを目的として記念事業に取り組んだ。

このような水谷の尽力もあり、日本協会を動かして、2014 年の日本協会主催の国際親善試合にバスケットボール発祥の地である米国スプリングフィールド大学を招待することが決まり、「日本選抜」との試合が京都で開催されることとなった。

この国際親善試合に併せて京都を訪れたスプリングフィールド大学の「メアリー・ヘス・クーパー学長」は、京都が日本のバスケットボール発祥の地であるとした「盾」と「ポスター」を持参され、京都協会会長に贈呈された。

試合は7月京都市民体育館で満員の観衆のもと開催され、試合前のセレモニーで佐藤金一の孫「五條園美」さんも名古屋から駆けつけてクーパー学長とコート上で日本のバスケットボール伝来に関わった関係者として歴史的な対面をされるなど、大いに盛り上がった。

また同日、バスケットボール発祥の地である中京区柳馬場三条の京都YMCAの一角に設置された「バスケットボールの歴史がこの地で始まる」と刻まれたモニュメントの除幕式が挙行政され、京都市長、クーパー学長そして佐藤金一の関係者も参加された。



1915年京都 YMCA
のモニュメント碑文
(出典：90周年記念誌)



メアリー・クーパー学長と
佐藤金一の孫の園美さん
(出典：90周年記念誌)



クーパー学長と
メッセージ文
(出典：90周年記念誌)

= 京都協会法人化 =



兒玉幸長
(出典：90周年記念誌)

2016（平成28）年3月5日に兒玉会長の京都協会が「一般社団法人京都府バスケットボール協会」として新しい時代に移行した。

日本協会が府県協会法人化方針を掲げ、2015年度末までに各府県協会法人化を義務付けられ京都においても法人化に着手した。

京都の法人化は兒玉会長のもと、「法」の目的に沿った本格的な法人化を目指し、それまでのバスケット人だけの協会組織からバスケット界以外の学識経験者を理事とし、「弁護士」「公認会計士」「医学博士」や「税理士」など第三者の意見を聞き透明性を確保した法人化が実現した。

京都の法人化は全国の模範となる法人化例となり「さすが伝統の京都協会」と言われ、現在でも高く評価されている。

= 福山会長選任とコロナ禍 =

兒玉会長が「役員の年齢等に関する規程」に定める役員年齢制限の70歳となることから、超党派の国会議員でつくる「日本バスケットボール議員連盟」の当時副会長であり、京都ではハンナリーズ創設に尽力し、当時は協会特別顧問であった参議院議員の「福山哲郎」に会長就任を依頼した。



福山哲郎
(提供元：福山哲郎HP)

2020（令和2）年6月の協会総会で福山代表理事・会長が選任され、併せて日本協会副会長・Bリーグ初代チェアマンの経歴を持つ「大河正明」が副代表理事となり、専務理事の「吉田祐司」とともに新しい協会体制となった。

会長経験者の兒玉は「名誉会長」、石川が「最高顧問」に就任した。

しかし、この頃から「コロナ禍」となる。バスケットでは「インターハイ」が中止になるなど、日本のスポーツ界においても従来とは全く異なる過去に経験したことのない状況となり、京都協会でも多難な時代となった。約3年の間、この状況が続くが、福山会長のもと協会役員が一丸となってコロナ禍の難局を切り抜け、幾多の先人が築いてきた京都バスケットの伝統を守ることができた。

＝ 次の100年に向けて中高校生が大活躍 ＝

<京都女子バスケの伝統甦る>

近年、京都の中高校生が大活躍している。2020年には男子の東山と洛南がウインターカップ準決勝で対戦し、東山高校が準優勝、洛南高校が3位となった。中学生では「京都精華学園」がJrウインターカップで準優勝するなど、全国で素晴らしい成績を残し、2022年インターハイでは「京都精華学園」が初優勝を飾った。

2023年にはインターハイで男子東山が準優勝、女子京都精華学園がV2、全中でも京都精華学園女子優勝、男子3位、ウインター

カップでも京都精華学園がV2となる。特に京都精華学園女子は、トップリーグ優勝、国体少年女子優勝と高校女子の4冠を達成し、全国トップの強豪校となった。

京都協会設立100年の記念に併せて中高校生が素晴らしい活躍を続けている。

京都は戦前、「府一」や「府二」等の女性バスケットが大活躍した伝統の地であるが、福山会長就任の頃から「京都精華学園」の活躍が目覚ましくなってきた。

京都精華学園は、1925（大正14）年に女子バスケットボール部を創設した京都で最も古いバスケットの歴史を誇る伝統校であり、名指導者の「山本綱義」のもと中高一貫指導を徹底し、全国の強豪校として活躍している。

京都のバスケット史において、男子では戦後の山城高校、洛南高校、東山高校が全国に「京都」をアピールし、女子では令和の時代に「京都精華学園」が京都の女子バスケットを甦らせた。

そして、本年、2024（令和6）年の「京都府協会設立100周年」にあたり、「福山哲郎」会長を先頭に協会あげて次の100年に向け、新しい歴史と素晴らしい希望に満ちた京都バスケットの未来を築こうとしている。

以上



京都精華学園高校
（出典：京都府バスケットボール協会
ニュース第16号）
（提供元：京都精華学園高校）

会員だより



嘘のような、本当にあった話（その6～）

元高校教諭 須田 武志

本寄稿は、滋賀県立膳所高等学校の男女バスケットボール班を長年指導された須田武志先生によるもので、前4号（初回 97 号、第2回 98 号、第3回 99 号、第4回 100 号）の続きです。

（編集部注）

その6. インターハイ 10 年連続出場ならず 1978（昭和 53）年6月

どのような世界においても連続 10 回優勝というのは難しいものである。あのプロ野球の巨人ですら 9 年連続優勝でストップした。

私の教えているチームも 10 年連続優勝を目指して頑張ったが、予想外の事態が起きてインターハイ 10 年連続出場はならなかった。

予想外の事態とは、1979（昭和 54）年8月の高校総体（インターハイ）及び2年後の 1981（昭和 56）年10月の国体（現、国スポ）のバスケットボールの会場の一部として、本校の体育館を使用することが計画された。現在、使用している体育館は、バスケットボールコートが一面しか取れないうえに天井の照明は蛍光灯で、とても薄暗い。更にフロアはドリブルをしても簡単に跳ね上がらない古い体育館である。その古い体育館を壊して、その跡地にバスケットボールコートが2面取れるという立派な大きな体育館を建てようということになった。

1978（昭和 53）年3月の体育館での卒業式を最後に体育館を取り壊して、その跡地に、この年の11月に完成する計画であった。体育館がないので練習する場所がない。困ったことになったものである。1969（昭和 44）年から 1977（昭和 52）年まで、9 年連続インターハイ予選に勝っているのに、なんとかして連続 10 回優勝したいという気持ちがあるものの大変困難な局面に立たされることになった。校外で体育館の使えそうなところをあちこち探しまくった。練習場所もなかなか見つからず、大いに困った。毎日がジブシー生活であった。

生徒たちは教科書やノート等の入った重い鞆、練習用具、ボール類、救急箱等々を持って、通勤通学の人でいっぱいの満員電車で揺られながら、朝に夕に通学していた。文句一ついわず、あちこちの遠方の練習会場を往復した。交通費だけでも大変である。体育館が完成するまで、これが11月まで続いた。

そういう悪条件の中で迎えたインターハイ予選。10 年連続出場を目指したが・・・・・・

インターハイ予選はベスト4によるリーグ戦での試合であった。なんとかベスト4には辿り着くことが出来たが、試合の結果は1勝2敗という成績で終わった。ただ、このリーグ戦で1勝したチームがインターハイに出場したことが、せめてもの救いであり慰めであった。

古い体育館を壊して新しい体育館を建設したために、ジプシー生活を余儀なくされ、9年連続インターハイに出場していたチームが10年目にしてインターハイ予選に敗退して、出場できなくなってしまった。

その7. 体育館開き 1978（昭和53）年11月

待望の立派な体育館が完成した。「体育館開き」をやろうということになった。そこで、この年の8月に山形で開かれたインターハイで見事に優勝した京都の洛南高校に来てもらって対戦することになった。インターハイで優勝した洛南高校が本校の「体育館開き」にわざわざ来て頂き感謝でいっぱいである。洛南高校の顧問の南波先生（元国際公認審判員）にご無理を願って試合をして頂いた。因みに洛南高校と本校とはJRで12分という近さであり、交通費は、片道210円（当時）である。多くの一般生徒の見守る中での試合であったが、試合の結果は檻樓負けで、無残なものであった。

その8. 史上最悪の練習試合 —女子高生に敗れる—

大津市で開催されるインターハイの1回戦の試合会場が本校の体育館で行われるということで、甲子園学園高校（女子）を率いる霜村武彦先生が練習で体育館を使わせてほしいと連絡してきた。本校のもう一人の顧問の先生（理科・生物）が鳥取出身で、霜村武彦先生（理科・化学）も同じ鳥取出身という関係で話がトントン拍子に進んだ。甲子園学園高校が練習したあと、折角だから練習試合でもやろうじゃないかという話になり、甲子園学園高校（女子）と税所高校（男子）が試合することになった。

当時の甲子園学園高校は、長身選手が多かった。180cm前後の選手が沢山いた。一方、本校の生徒というと172cmちょいという身長の高さである。試合の結果は、完敗であった。試合が終わってから、試合をしなかったらよかったと後悔頻りであった。

大津インターハイでは、甲子園学園高校は惜しくも優勝を逃し、準優勝であった。

決勝 甲子園学園高校 42 ($\begin{smallmatrix} 22-10 \\ 20-34 \end{smallmatrix}$) 44 小林高校（宮崎）

決勝戦では、甲子園学園高校が前半22対10で圧勝していたが、後半失速してしまって20対34。結局、42対44の2点差で惜しくも優勝を逸した。このチームのポイントゲッターは、長身の久保田久美177cmで、42点中16点をとった。

そして彼女は、当時、敵なしと言われたシャンソンに入り、ポイントゲッターとして大活躍した。シャンソンの黄金時代を築いた。

その後、久保田久美は結婚して渡邊姓になった。そして、その息子がNBAメンフィス（グリズリーズ）で活躍していた「渡邊雄太」選手である。彼は今回のワールドカップで、パリオリンピック出場の立役者として大活躍し、よく頑張ってくれた。（現在は帰国して、Bリーグの千葉ジェッツに加入）

近畿大会で2回優勝したり、インターハイに10回出場したり、ウインターカップにも何回か出場したようなチームが、たとえ練習試合とはいえ、このような無残な結果を招いてしまったことは、至極、残念である。これは公立高校の宿命なのだろうかと思うことがある。私は38年間、生徒をリクルートした経験が一度もなく、リクルートしたくてもリクルートできない学校なので、それは致しかたないことなのかもしれない。入学してきた生徒しか教えてこない。

こどもの積み木遊びと一緒に、一所懸命に組み立てて作った積み木があまりにも無残に簡単に壊されてしまう。これと一緒にような気がしてならない。まさしく。

建設は一生、破壊は一瞬

である。

<つづく>

会員だより



長野クラブのあゆみ

長野クラブ部長 丸山 広伊

今から 46 年前の 1978 年、長野国体が開催された直後に長野市教育委員会主催のスポーツ教室の一環として「ママさんバスケットボール教室」が開催されました。

その翌年、教室は終了したものの「このままバスケットから離れてしまうのは寂しい」「もっとバスケットボールを続けたい」という強い想いの 10 数名が集まり、長野市バスケットボール協会の小林和夫氏と信州大学教授の糟谷英勝先生にご尽力いただき、長野クラブが誕生しました（正式な設立は 1981 年 3 月）。

1980 年、埼玉県家庭婦人連盟主催の全国交歓大会に出場。2 年後の 1982 年には日本家庭婦人連盟主催の全国大会が開催され、第 1 回大会から出場させていただく事となります。全 36 大会のうち一般・シニア両チームで 33 回出場いたしました。

長野県内では長野クラブ主催の大会を開催する事となり、それが長野県家庭婦人連盟の礎となりました。

大会への参加だけではなく、日本家庭婦人連盟には白谷（旧姓 鈴木：三井生命）が、そして長野県家庭婦人連盟にはチームのメンバーが、それぞれ女性のバスケットの普及に長年にわたり携わってまいりました。

それから半世紀近くの年月、学校の OB 会でも職場を基盤とする組織でもない「趣味の集まり」を維持できているのは容易な事でないと思っています。もちろん年齢も環境も違う色々な人間が集まっての活動ですから方向性の違いや様々な事情で話し合いが必要な時もありました。また、チームが発足した昭和 50 年代はまだ、プロアスリートでもない女性が自分の趣味の為に宿泊を伴う遠征に出かけるなんて中々難しい事だったのではないのでしょうか？ かく言う私も幼かった子供を連れて（時には主人に子守りをお願いして）出かけるのはとてもハードルが高い事でした。それでも私達がこのチームを続けて来られたのは、月並みではありますが「バスケットボールが大好き」の一言に尽きるのではないのでしょうか？

さて、家庭婦人のチームとして発足した長野クラブですが、2017 年社会人連盟の組織変更に伴い現在は未婚のメンバーも一緒に活動しており、2024 年 11 月現在 44 名で活動しています。発足から 46 年が経ち、所属連盟の組織変更やコロナ禍による活動自粛などさまざまな要因からチームの活動のあり方も変化してきていますが、変わらないのは練習の風景です。

練習は週に 1 ～ 2 回、長野市内の体育館を中心に活動しています。寒い時期には毛布や電気ストーブ、暑い夏には扇風機を持参で、赤ちゃんを連れて参加するメンバー。せっか

く参加したママさんに少しでもプレイをさせてあげようと泣いている赤ちゃんをあやしてくれるメンバー。走り回りたい盛りの子供達を連れて参加するメンバー。子供がミニバスを始めたら私もやりたくなったと何十年ぶりに参加するメンバーなど、様々なメンバーが集まってきます。子供同士で遊んだり喧嘩したり…時にはコートのを走り回る子供達の方が多かったり。そんな微笑ましい情景の中で練習は欠かさずに続けて来ました。みんなで協力しながらバスケットに参加できる…練習や試合に送り出してくれる家族に日々感謝しながら、今後も様々な活動を続けて行きたいと思います。

卒業・結婚・出産をし、一線を退いた女性が再び大好きなバスケットボールができる…チームメイトと共通の趣味に時間を費やし一つのボールに夢中になれる…長野クラブはそんな場所であり続けて行きたいと思っています。

「長野でバスケットやりたいなら長野クラブにおいで！！」と自信を持って言えるチームであり続けたいと……。



1999 年仙台大会にて



2002 年愛知大会にて



2017 年広島大会にて



2024 年 JSB 姫路大会にて

以上

会員だより

FIMBA イタリア・ペーザロ大会に参加

川戸 政角



FIMBA は、maxibasketballと言われ、アルゼンチンが発祥の地と言われています。MAXI(最高)はミニバスの反対語で高齢者までのバスケットボール競技と思っています。女子は5歳ごとに35歳から65歳までで今大会の参加チームは 66 チーム、男子は35歳から75歳までで今回の参加チームは 126 チームとなります。

今回私たちが参加したのは M70 のカテゴリーで、70歳以上の選手のチームとなります。M70のクラスの参加チームは8チームでA、Bブロックに分けて予選を行いました。

Aブロック: イタリア、ウクライナ、ドイツ、日本(＊)

Bブロック: アメリカ、リトアニア、イギリス、ドイツ

(＊)日本チームは選手10名、平均年齢71歳、平均身長 181cm

6/19 羽田発 21:40 (以下の時刻は現地時間)

6/20 フランクフルト着 05:20 (フライト時間 14:40)

フランクフルト発 08:45 イタリアボローニャ空港着 10:05 (フライト時間 1:20)

ボローニャ空港発 バス～ペーザロホテル着 14:00 (フライト時間 2:00)

空港での待ち時間を入れると22時間の旅でした、これは選手にとってかなり負担になったと思います。翌日の午後からホテル近くの体育館で1時間ほどの練習時間がありました。各国代表が本番さながらの練習をしています。我々は軽くシュート練習とゲーム形式の練習で終了、明日からの試合に備え軽めです。夕食はホテルのレストランでbuffet(ビール、ワイン、ソフトドリンク飲み放題)、円卓で通訳の真貴さんが入り食事を楽しみました。

6/23 予選始まる 初戦はイタリア戦です。イタリアはフィジカル、外角のシュート、ゴール下のシュート力も高く長身選手は少なかったのですが負けました。 ●36:50

6/24 2戦目はドイツ戦 ホテルの授業員でモロッコ出身のアミーナさんの応援と地元ペーザロの子供たちが日本の応援をしてくれて完勝。 ○36:24

6/25 3戦目はウクライナ(チーム名はAMIGO)、戦争をしている国の選手には驚きましたが、皆さん好意的で楽しむことができました。 ●33:50

予選リーグはこれで1勝2敗となり第3位となりました。

6/26 1日観光 世界遺産の街ウルビーノ(ラファエロの生誕地)

6/27 から全チームでのトーナメント戦となります。

6/27 トーナメント1戦目はイギリス戦
でかい、高いが揃っていてこれが世界の壁と知ることが出来ました ●33:73

6/28 トーナメント2戦目はアメリカ戦
アメリカは 2m10 と 2m04 の 2 人の 2
m 越え、アメリカと戦えるのは夢のよう
です。アメリカは怪我や帰国で 3 名が脱落
したそうです。 ●46:67
午後はサンマリノ共和国に観光



試合後イギリスチームと一緒に

6/29 トーナメント最終戦は予選で戦ったドイツです。
予選では応援もあり勝利しているので、負けるわけにはいきません。ドイツも同じでしょう。
予選とスタートメンバーを入れ替えて長身選手4人とガード1人がスタートです。延長戦とな
り両チーム必死の形相で戦い、最後は笑顔でお互いを讃えあい、充実した大会となりました。
●42:45
午後はみんなでスーパーへ買い物



ウルビーノにて



サンマリノにて



上記 QR コードに
アクセスすると動画
をご覧いただけます

6/30 帰国
送迎バスが高速道路の事故渋滞に巻き込まれ予定の飛行機に乗れずボローニャ空港近くの
ホテルに宿泊。おかげで近くのレストランで美味しい夕食をいただきました。

7/1 ボローニャ空港発 ドバイ経由 成田着で帰国
ドバイ空港に行けて良かったのですが、生ビール 500mlが 2500 円には驚きました。ドバ
イ空港発の飛行機には日本代表バレーボールチームが同乗、お互いに今後の活躍を約束し
成田空港 18 時に解散となりました。

大会は 1 勝 5 敗で最下位でしたが、各国とも友好ムードの中で競技を通じ毎試合、厳しく、楽し
くもあり充実した大会でした。結果は、1 位イギリス、2 位リトアニア、3 位イタリア、4 位ウクライナ
(アメリカはメダル争奪戦に不参加)。

来年はこのメンバーでWMG台湾に挑戦します。メダルを持ち帰ります。

以上

会員だより

2024FIMBAの大会に参加

田中 芳郎



私がバスケットボールを始めたのは大分県豊後高田市で中学1年生の時からです。今は74歳ですから62年の間、バスケットを愛し楽しんでできました。バスケットボールに感謝です。

今年6月には、イタリアのペサーロ（イタリアの東側アドリア海）でFIMBAの大会70+のカテゴリーで参加させていただきました。65+の仲間達共と大会を楽しんでできました。この時期に2週間日本を離れることは、牧場をやっている私には大変でしたが、それ以上にバスケの仲間と過ごすことの方がまぎっています。

FIMBAの大会には、前回、2017年に参加させていただきました。横浜の山上氏に声をかけてもらってからです。全国のバスケ好きの仲間達と世界大会に出ることのワクワク感、65過ぎの私には異次元の世界にいる様でした。1日1試合、日本では考えられないスケジュールの中で、ぜいたくな一日一日を皆と過ごさせていただきました。イタリアの世界遺産フィレンツェの観光、美味しいイタリア料理に大満足でした。

今年はアドリア海の観光地ペサーロで12日間、バスケットと観光とイタリア料理、至福の時間でした。その中で2試合目のドイツ戦に36対24で勝利しました。65+のメンバーと一緒に来られた奥さん（3人衆）の力強い応援とイタリアの地元の子供達の応援は心強いものでした。アウェイの試合で力をもらいました。集合写真の中、イタリアの子供達とおジィちゃんの微笑ましい雰囲気はとてもなごみます。

ミニバスやってるお孫さん、おジィちゃん。 まだまだ頑張って孫の手本になれるといいですね！

以上



事務局だより

[事務局]

◇ 大会会場となる体育館の確保

全国でシニア層を対象にした大会がいろいろな形で開催されています。すべての関係者にとっての悩みは大会の会場となる体育館の確保であり、最大の課題になっています。

◇ 「神田バスケットボール資料館」について

スポーツの競技を楽しんできた人にとってその時代の関係資料は貴重な証拠品です。その時代の全体像を残すために資料館が種々雑多なものを幅広く・数多く収集・保存され、その意義と重要性は大きいものです。会員の皆さんのお手元にある関係資料は、不要だと思われるものでも、振興会にご相談、またはご連絡ください。可能な限り、保管しましょう。いつの日か誰かが面白いと思って研究すれば新発見があるかもしれません。

◇ 人物抄 — 清水英樹

本 101 号掲載の <人物抄 — 清水英樹> について、プラザに掲載された記事を見た東京学芸大学の体育科学を専門に研究している鈴木秀人さん（東京学芸大学・大学院教授）から問い合わせがあり実現した対談記事です。

◇ 月刊「バスケットボール」が電子出版

プラザに掲載された記事を見て、歴史学術書などを専門とする株式会社クレス出版（代表取締役柴田昌伸）から、大日本バスケットボール協会発足以前の日本のバスケットボール界をリードした「薬師寺尊正」の経歴などについて問い合わせがあり、文章で回答しました。その結果、「薬師寺」が昭和 5 年から 1 年余りの間に発行した月刊「バスケットボール」全号（第 1 号から第 14 号）が電子出版されることになりました。

◇ 協賛企業・団体のご紹介のお願い

NP0 法人日本バスケットボール振興会では、「バスケットボールプラザ」に広告を掲載していただける協賛企業・団体を募集しています。会員の皆様の中に、ご紹介していただける企業・団体などがございましたら是非事務局までご紹介をお願いいたします。

◇ 会費納入のお願い

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されております。
会費未納の方、納入にご理解ご協力をお願い申し上げます。

以上

プラザ こぼればなし

- ◇ イダルゴ・パリ市長は、2024 パリ・オリンピック大会の締めくくる記者会見で「共に生きることを学ぶ、それがパリ・オリンピックの残した遺産だ。」と強調した。
- ◇ パリ・オリンピック日本男子代表は、フランスに善戦するなど勝機もあったが、1次リーグに3戦全敗した。あと1本のシュートを決めきる強さがこれからの日本の課題として世界との差が感じられた大会であった。
- ◇ パリ・オリンピックでの日本女子代表は、東京・オリンピック準々決勝で1点差で勝利したベルギーと対戦し27点差で惨敗し、1次リーグ3戦全敗の結末となった。世界の高さにスピードとスリーポイントで対抗して勝利した前回大会から、世界のバスケットはさらにレベルアップしている。12人中9人が前回と同じメンバーで若手の起用もなかった。新たな道のりを模索することとなる。
- ◇ 10月17日、バスケットボール男子のBリーグは、2026～27年シーズンに始まる新たなトップカテゴリ「Bプレミア」に参加する22チームを発表した。年内にさらに4チームが追加される可能性がある。平均入場者数4千人、売上高12億円、設備の整った5千席以上の観客席アリーナの確保などが審査の要件。しかし、最近の知事選で新アリーナ建設を反対する票が勝ったという逆風もあるが。
- ◇ 11月1日、アメリカプロバスケットボール（NBA）で活躍した姚明（ヤヲ・ミン）氏が中国代表チームの成績不振を理由に7年間務めた中国バスケットボール協会（CBA）の会長を辞任した。以前から、2024パリ・オリンピック出場権を逃した際には「責任を取る」と述べていたが。
- ◇ パリ・オリンピックで活躍した河村勇輝は現在、NBAメンフィス・グリズリーズと2ウェイ契約を結び、NBAと傘下のGリーグの両方でプレーしている。メンフィス・ハッスル（グリズリーズの下部組織）の試合では、12月2日現在、Gリーグ5試合目で3度目の「ダブル・ダブル」を達成し早くも活躍しているが、NBAでの出場時間はまだ少ない。173cmとNBAで最も身長が低い河村選手の人柄、プレイスタイルやパフォーマンスは地元ファンの心をつかんだようで、出場時間の増加を熱望する声も多いことから、早期の出場時間増加を期待したい。

以上

NPO法人
日本バスケットボール振興会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-20
新協ビル 304 号室
電話／FAX (03) 5276-5801
メール contact@jbbs.jp
